

令和2年 第14回 川口市教育委員会定例会会議録

日 時 令和2年8月26日(水)

午前9時30分

場 所 鳩ヶ谷庁舎大会議室

1 出席者

教育長	茂 呂 修 平	書記長	稲 垣 雅 世
委員	齋 藤 卓	書記	栗 原 栄
委員	宿 谷 岩 男	書記	菅 井 学
委員	中 田 裕 之	書記	今 本 敬 幸
委員	菅 原 京 子		

2 説明のため出席した者

学校教育部長 森 田 吉 信

(専門委員長)

指導課長 三 浦 伸 之

専門委員	川 鍋 岳 人	指導主事	上 倉 義 郎
専門委員	大 場 真	指導主事	向 井 剛 生
専門委員	阿 部 弘 之	指導主事	中 山 直 紀
専門委員	市 川 真 志	指導主事	川 島 慎 也
専門委員	磯 奈保子	指導主事	平 澤 佳都子
専門委員	小 出 喜代子	指導主事	新 居 良 介
専門委員	岡 安 孝 文	指導主事	米 倉 孝 輔
専門委員	瀬 山 真 一	指導主事	村 越 崇
専門委員	荻 上 晃 司	指導主事	藤 田 由美恵
専門委員	中 根 隆 弘	指導主事	千 葉 悠
		指導主事	小久保 理 恵
		指導主事	高 橋 大 喜

3 前回会議録の承認

茂呂教育長 第13回教育委員会定例会会議録については、書記より、各委員に事前配付している。質疑があればお聞かせ願いたい。

【質 疑】 (質疑なし)

【承 認】 (全員異議なく承認)

4 教育長報告

なし

5 協議事項

なし

6 議事

茂呂教育長

関係理事者の入室を求める。

【上程】

茂呂教育長

議案第123号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」を上程し、説明を求める。

【説明】

指導課長

(議案第123号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」資料に基づき説明した。)

【質疑】

茂呂教育長

指導課長から「議案第123号」について説明があった。すでに教科用図書については、委員それぞれに見本本と調査員の報告書、校長からの報告書が事務局より事前に送付され、十分に閲覧、研究されているものと思う。本日はしっかりと協議し、採択していく。

協議の進め方であるが、専門委員に専門委員会の調査結果について説明を求め、協議し、最後に採択する教科書を決めていきたいと考えるが、それによろしいか。

委員

(異議なし)

茂呂教育長

はじめに、専門委員長より専門委員会における統括の経過等について報告を求める。

専門委員長

本年度の専門委員会のこれまでの経過について報告する。

5月18日に専門委員会が組織されてから、「川口市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則」に則り、全3回の専門委員会を行ってきた。

具体的には、規則に定められている調査研究機関である調査員会からの調査結果、各学校長からの報告を踏まえた上で、保護者のご意見等も参考とし、とりまとめを行った。

その際、学習指導要領の趣旨を生かした各教科書の編集についてと、川口市の生徒の実態に即して、学ぶ上で、より「有効・適正」な教科書であるかという2点を中心に、分析・研究をしてきた。これらの分析・研究結果については、この後、各教科、種目ごとに詳細な報告をする。

茂呂教育長

それでは、本市の生徒の課題を踏まえ、生徒にとって学びやすく、教師に

とって指導しやすい教科書は何かという観点を踏まえ、採択していきたいと考える。

まず、各専門委員に学校からの報告、保護者の意見等に基づき、調査委員会で調査、分析した内容等について説明を求め、質疑の上で協議に入るという形で進めたいと思うが、それでよろしいか。

菅原委員

それでよいと思うが、各教科の教科書の内容や報告書では、各社それぞれに特長がある。また、非常に多くの教科書があるので、協議をしていく上では、本市の生徒の課題を踏まえ、特にどの点を中心に協議すべきかある程度絞って協議する方が、よりよい教科書を選ぶ上で、協議が深まると思うがいかがか。

委員

(異議なし)

茂呂教育長

今の菅原委員の意見も踏まえ、進めていきたい。

それでは、教科書の協議に入る。まず、教科書の調査、分析した内容等についての報告のため専門委員の入室を求める。

(国語・書写専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長

専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点でよりよい教科書を選んでいく考えである。

そこで専門委員・事務局に入室をお願いした。これから、国語の教科書について、専門委員会の調査、分析の内容等を説明いただいた上で、質問をさせていただく。国語の後で、引き続き書写について改めて説明をお願いする。

それでは報告をお願いする。

川鍋専門委員

それでは、国語について報告する。

まず、次の3点について確認し、これらを踏まえて検討を進めた。1点目は、川口の生徒の国語の課題について。2点目は、川口の国語科の教員について。3点目は、学習指導要領の改訂の趣旨及び要点についてである。

では、各社の教科書について調査の結果を申し上げる。詳細は、調査員会報告書や学校の調査報告書等を御覧いただきたい。

各社の大きな特徴としては次の通りである。

はじめに、「東書」。

調査員会の報告からは、身に付けさせたい力をはっきりとさせた構成や配列に大きな特徴がある。学習のガイド、ワークブックの要素のあるページ、資料等、1冊で学習の仕方がまかなえる丁寧な作りになっており、授業づくりが容易であると言える。

巻末の「基礎編」「資料編」が充実している。また、要所要所に読書案内がまとまっている。

イラスト入りの会話形式による導入や、教科書全体の色遣いの豊富さなど、

生徒が楽しんで使えると思えるようなつくりになっている。

学校からは、「つけたい力が漫画で示され、生徒が興味を持ちやすい」といったデザインの点、「各教材で評価すべきポイントを明記し、理解を深めることに役立っている」といった学習のポイントについて評価されていた。

また、保護者の意見としては、「表紙が現代小説風で中学生がなじみやすそう。漫画形式の説明やイラストが多めで引き込まれやすいかも。」という意見があった。

次に「三省堂」。

調査員会の報告からは、学習の進め方に関するページが大変整理されており、学習内容を広げる工夫がされている。

また、「情報」のページとして、図表や記録等の複数の資料から自分の考えを形成する題材が設定されているのが大きな特徴である。

文学作品や読書教材が充実している。例として、教材ごとの終わりに本が3冊紹介され、巻末資料にも本の紹介がある。

学校の報告では、「三角ロジックや要約など、表現や読解の助けになる分野が充実している」という文章の読み方に関する点、「語句の意味や関連する事柄を詳細に記載している」といった、言語事項に関する点が評価されている。

保護者からは、「後半の資料部分に力を入れているのか多めの印象」という意見があった。

次に「教出」。

調査員会の報告では、これから学習する内容のポイントが事前に示されていることや、その単元で身に付けるべき力が示されていることから、見通しを持った学習がしやすいと感じる。

SDGsに特化した、複数の資料から自分の考えを形成する題材を設定している点が最大の特徴である。

10冊程度の本が各学年8～9回紹介されており、読書意欲の喚起につながると思われる。

学校の報告では、「必ず初めにねらいが大きく示され、生徒も学習のポイントをつかみやすい」といった学習の進め方や、「現在の国際情勢に合わせた教材を採用している」など、社会生活との関連について評価されている。

保護者からは、「内容が幅広い印象。各單元ごとに本の紹介があり、本選びの参考になる。」という意見があった。

最後に「光村」。

調査員会の報告では、学習方法や学習の流れについて、わかりやすく簡潔に示されているため、教師が生徒の実態に合わせて学習方法や授業のデザインを工夫できる余地が残されている。教師が教材研究を重ねることにより、指導力を伸ばすことができる教科書であると考えられる。

学習のポイントが非常に整理されているため、生徒にとっても分量として多すぎず、授業で教師が扱うのに使い勝手がよいと考える。

QRコードにより写真や音声教材を活用できるため、ICTを活用した授業の工夫もできる。

学校の報告からは、「グラフやフローチャートで文章を図式化する教材がよい」など読む力を身につける工夫や、「総合的に一番バランスが良い」という点などが評価されている。

保護者の意見には「表紙のイラストが柔らかめ。内容は手厚い印象。」というものがあつた。

以上のことを踏まえ、総括すると、学習の流れや学び方がシンプルなのが光村、ガイドブックのように丁寧に作りこまれているのが他3社であると考える。どの教科書も、川口の生徒の課題となっている力を養うのには十分適していると思う。その上で、教科書の情報量や、生徒の実態に合わせ、教師の裁量により工夫できる部分があることや、生徒が自らの力量に合わせて、より深く学べる事も大事ではないかと考える。よって、専門委員会としては、「光村」が最も適切であると報告する。以上である。

茂呂教育長

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員

川口市の生徒の国語の力における課題はどんなことか。

上倉指導主事

昨年度の全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果から、問われている内容に対し、考えをまとめ、自分の言葉で表現する力に課題があると捉えている。また、これらの点においては、全国や県と比較して無回答率が高いことから言えるものと考え。

齋藤委員

今説明された課題の原因は、どんな点にあると考えられるか。

上倉指導主事

おおまかに、次の3つの場合が考えられると捉えている。1点目として、問われている内容が理解できない場合。2点目として、複数の文章や資料の内容を総括して考えを形成することができない場合。3点目として、条件に沿って自分の考えを根拠をもって文章にすることができない場合である。

宿谷委員

今の質問に関連して、報告書等では、読解力についても触れられていたように思う。各社の教科書に掲載されている文章には、共通した文学作品もあれば違うものもある。読解力という点で、その辺は影響があるものか。

上倉指導主事

「教科書会社により異なる作家の文学作品が掲載されていることが、読解力に影響があるか」ということについては、結論から申し上げますと「ない」と言ってよいと考える。

掲載されている文学作品は、文豪と言われている作家のほか、直木賞作家など著名な作家の作品が多く掲載されている。

読解力については、学習指導要領で示される国語の内容のうち、〔思考力・判断力・表現力〕の内容の中で構成される3つの領域のうち、「C読むこと」に該当する。学習指導要領では、「読むこと」について、「構造と内容の把握」、

「精査・解釈」、「考えの形成、共有」という3つの構成から指導事項と言語活動例を示している。また、〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連を図ることも示されている。

従って、各社、身につけさせたい力を育成するためにふさわしいと考える作品を、学習のねらいに沿って掲載していることから、作品が何であれ、その意図を教師が理解し、指導事項を確実に指導することが大切であると考え

菅原委員 国語の力は、他の教科でも資料を読んだり、レポートを書いたり、話し合いをしたりといったことにつながっていくと思うが、各社の教科書では他の教科との関連はどのように図られているか。

川鍋専門委員 国語は、言語能力を育成する中心的な役割を担う教科なので、国語で育成する言語能力は、他教科でもそうであり、社会生活における様々な場面で活用できるよう指導することが重要である。

他教科との関連は、各社とも意識してつくられていると捉えている。

例えば、東書では「他教科で学ぶ漢字」として各学年で漢字学習がまとめられているページがある。また、他教科との関連が図れる教材には教科名が記されているページもある。

三省堂では、冒頭に教科書の使い方を説明しているページがあるが、「読み方を学ぼう」という思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法が示され、他の教材や他教科での活用を想定している。この「読み方を学ぼう」は巻末に一覧がまとめられている。

教出では、「持続可能な未来を創るために」という「総合」の教材が設定されている。三省堂にも複数の教材を関連づけて考える課題があるが、教出ではSDGsに特化して、他教科や社会生活との関連を意識的に設定していると言える。

光村では、1年生の「情報を整理して書こう」というページで“わかりやすく説明する”ことを目的とした教材が設定されている。次のページの「つなぐ」のように、他教科でどのように活用できるかだけでなく、日常生活や将来での活用場面を想定して示している。

中田委員 各社の教科書を見てみると、情報やメディアの扱いがクローズアップされているように思う。今、SNSが社会問題になっているので、そういうことに関係しているのかと思うが、どうなのか。

もし、そのようなことであるなら、どの教科書が充実しているのか。

上倉指導主事 まず、教育委員が御指摘されたポイントについて、「情報の扱い方に関する指導の改善・充実」は、今回の学習指導要領の改訂のポイントになっている。

学習指導要領解説では、“様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている”ということから、指導事項に「情報

の扱い方に関する事項」が新設され、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二系統に整理して示されている。

川鍋専門委員 今、事務局が説明したような点から、各社とも情報の受け手だけでなく発信者として考えさせる教材が充実していると捉えている。

学習内容の一覧を示したページが各社の教科書の巻頭にあるが、中でも、光村は巻頭の見開きの8ページ「学習の見通しをもとう」で「情報」として教材名を示して分類されているように、教師にとっても生徒にとってもわかりやすく表示されている点がよいと考える。

茂呂教育長 教科書に基づいて指導していく上で、大事なのは実際に授業をする教員だが、教員にとって、学習の流れが細かく丁寧に示されている教科書と、大まかなつくりになっている教科書では、どちらの方が教えやすいと考えられるか。

川鍋専門委員 教員にとっては、どちらにも良い点があると考え。学習のポイントや流れが細かく丁寧に作りこまれている教科書は、経験の浅い教員にとっては、いわゆるガイドラインのようになり、その流れで授業を行えばよいという目安になることもあると考える。

細かくつくり込みすぎず、学習のポイントなどが整理されている教科書の場合は、教員が生徒の実態に合わせて指導を工夫し、授業を進められると考える。

一方で、生徒にとってもどのようなつくりになっているかは大事であり、詳細に書き込まれている教科書は、生徒にとっても非常に丁寧にわかりやすいとは思いますが、川口の生徒の実態及び課題からは、先程の事務局の説明にもあったように、「その書かれている内容を十分に読み取ることができるか」という点で十分とは言えない現状がある。そのような意味では、詳細まで丁寧につくり込みすぎず、要点が整理され、教師の指導・助言や実態に合わせた補足説明等により授業を進めていく方がよいと考える。

菅原委員 学校からの報告書では光村の評価が高いが、専門委員会としてはどのように捉えたか。

川鍋専門委員 光村の教科書で扱う文章教材については、各学年とも一部を除き、現在の教科書と大きな変更はない。学校報告書の所見欄からは、「教材も変わらないものが多く、使いやすい印象」のように、長らく使用している教材への安心感等もあるかとは思いますが、その他にも「単元ごとの目標が明示されており、『学習の窓』があるため、教員にとって指導内容がわかりやすい」、「多様な思考ツールを掲載しており、生徒が自分自身の考えを深めることができる」、「具体的な課題設定や学習の流れで、学習の見通しがもてるような工夫があつてよい」といった、教科書のつくりそのものに対し、多くの肯定的な意見もあった。それらを総合して、学校の報告では光村の評価が高かったと捉えている。

茂呂教育長

他にはいかがか。

よろしければ、国語に関する質疑を終わり、書写に移る。

それでは、続けて書写について調査研究の報告をお願いします。

川鍋専門委員

それでは、書写について1社ずつ報告する。

まず、「東書」。

調査員会からは、「書写で学ぶこと」のページが、生活の中で役立つ場面を想定して学習に取り組むことができるように工夫されている。「書写のかぎ」として文字を正しく書くためのポイントをわかりやすく示している。漫画やイラストが豊富で、かつ大きめの版のため、見やすい教科書であると言える。

学校の報告書からは、「身の回りの表現についての記載が多い。」「漫画や挿絵が豊富で、生徒が親しみをもって学習に取り組みやすい」といった点が評価されている。

保護者の意見は特になかった。

次に「三省堂」。

調査員会の報告からは、学習の流れを7つの過程で構成している。なぞり書きや書き込みのページが豊富で、学習したことを意識して、振り返りを書き込めるようになっている。各学年で、グループ新聞を作る活動など、学校生活や社会生活と関わる活動が設定されている。

学校の報告からは、「生徒自身が身の回りで生かせるような教材の配列が優れている」「太フェルトペンの使い方について具体的に使い方を示し、特徴を生かした書き方を示している」などの点が評価されている。

保護者の意見は、「書く仕事をされている方が載っていて、読んだ生徒の将来の幅が広がると思いました。」という意見があった。

次に「教出」。

調査員会の報告からは、学習の進め方として5つの過程で示す工夫をしている。振り返りでは、「○=できた」「△=もう少し」の2通りの自己評価で判断するようにしている。書写で学んだことを学校生活や社会生活に生かす活動上の工夫があり、版も大きく見やすいつくりになっている。

学校の報告からは、「生活の中でどのように書写を活かせばよいのか具体的である」「高校芸術につながる記述が裏表紙にあり、流れを感じる」など評価がされていた。

保護者からは、「志願書の書き方が分かりやすく載っていた。ポスターの書き方など参考になることが多いように感じた。」という意見があった。

最後に「光村」。

調査員会の報告からは、学習の展開が一連の流れで構成され、学習のポイントも「学習の窓」として、国語の教科書と同じようにしている。年賀状を書き、切り取って郵送できるようにしているなど、実際に文字を書いて生活

に生かすことについて各所に工夫がある。色味などを押さえるページと図版などのページが明確に分けられ、文字に集中できるつくりになっている。

学校の報告書では、「UD書体のコラムなど最新の情報もあり、他教科の関連や実生活に役立つ記述も多い」「国語の教科書の『季節のしおり』を取り上げるなど、国語の学習活動を活かす工夫がされている」といった点が評価されている。

保護者の意見は特になかった。

以上のことを踏まえ総括すると、手本があるページでは、学習のポイントが見開きの右ページに、手本が左ページにある方が、学習の流れ上、見やすいと考える。このようなつくりになっているのは、東書、三省堂、光村である。

資料や書き込みのページと今申し上げたページが、はっきりと分かれている方が、文字に集中できると考える。その点で優れているのは光村である。

よって、専門委員としては、「光村」が最適であると報告する。

茂呂教育長

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員

国語の授業のうち、書写の時間は何時間行うことになっているのか。

上倉指導主事

中学校では、書写の時間に配当する授業時数は、1年生と2年生の年間総時数140時間のうち、20時間程度。3年生では105時間のうち10時間程度となっている。

齋藤委員

書写の授業における課題は何か。

上倉指導主事

中学校では、小学校で丁寧に指導されてきた、姿勢、筆の持ち方、筆圧、墨の量等を踏まえて指導しているが、学校外で熱心に習字を学んできた経験のある生徒もいることや、2年生からは行書を学ぶことから、中学校では小学校よりも二極化が進んでいるものと捉えている。しかし、ほとんどの生徒は、課題に対し意欲的に学んでいる。

齋藤委員

来年度から全面実施される新学習指導要領において、書写ではどのようなことが重視されているのか。

上倉指導主事

大きく2点ある。

1点目は、「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる」こと。

2点目は、「毛筆においても、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する」ことである。

菅原委員

今の答えの関連で、「書写の能力を学習や生活に役立てる」ということのために、各社どのような工夫や記載の仕方をしているか。

川鍋専門委員

では、各社の見本を用いて1点ずつ説明する。

東書は、2ページ・3ページを御覧いただきたい。「書写で学ぶこと」とあり、具体的な場面を想定して学習に取り組むことができるようにしている。三省堂は、48ページを御覧いただきたい。「グループ新聞を作ろう」とい

う例が示され、学習意欲を喚起する工夫が見られる。

教出は、34ページを御覧いただきたい。「季節の行事と書写」というコラムにより、学校行事と結びつく書写の学習を紹介している。

光村は、27ページを御覧いただきたい。巻頭から始まる「書写ブック」の最後に、年賀状を書き、切り取って実際に郵便はがきとして使用できるよう工夫されている。

宿谷委員 専門委員の説明では、「学習のポイントが見開きの右ページに、手本が左ページにある方が、学習の流れ上、見やすい」と説明されていたが、そういう作りの方が見やすいものか。

川鍋専門委員 書写の教科書は、国語の教科書と同じで縦書きのため、教科書は右のページを先に見て、左に進んでいく。学習する文字を書くためのポイントが右ページで先に示されていて、左ページにある文字を手本として実際に書く活動に入る方が、自然であり、学習しやすいと考える。そのような作りになっているのが、4社のうち、東書、三省堂、光村の3社である。

茂呂教育長 実際の授業では、左利きの生徒に対して、どのような点に配慮して指導するのか。

上倉指導主事 基本として、用具と手本の配置を逆にすることである。これは、用紙をまたいで墨をつけることを避け、用紙を汚すことを防ぐためである。

茂呂教育長 他にはあるか。無いようなので、書写に関する質疑を終わる。
それでは、国語及び書写の教科書を決定していきたいと思う。まず、国語について何か意見はあるか。

菅原委員 総合的なバランスから光村がよい。主体的、対話的で深い学びを実践していくにあたり、配列や指導の内容からも光村がよいと考える。

宿谷委員 光村がよい。教員にとっても生徒にとってもわかりやすい。作りがよく、学校から多くの肯定意見があるため、光村がよい。

中田委員 自分も光村がよい。一番わかりやすくよいと思う。

齋藤委員 結論は光村。ただ、あまり差はないと思うが、それでも「読む」の単元で何をやるのか発信する作りになっている点がよいと思う。

茂呂教育長 では、書写についてはいかがか。

菅原委員 専門委員の説明と学校の報告からも光村がよいと考える。

宿谷委員 文字を書くのに集中できる作りになっているという点で光村がよい。

中田委員 見やすいという点で大きさも見たが、小さくても内容が変わらないなら机の上の配置も考えて光村がよい。

齋藤委員 他の委員と同様で、情報量の面からも光村がよいと思う。

茂呂教育長 ただいまの各委員の御意見から、国語では光村、書写でも光村を推す意見が多いので、国語は光村図書、書写も光村図書を採択することに決定してよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 以上で、国語・書写について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。
続いて、社会・地図の専門委員、事務局の入室を求める。
(国語・書写専門委員、事務局 退室)

(社会・地図専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長 専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、社会の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただくが、教科書目録の種目に沿って、地理・歴史・公民それぞれ順番に行っていきたい。

社会の後で引き続き地図について、改めて説明をお願いします。

それでは、まず地理からお願いします。

大場専門委員 地理の教科書は東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の合計4社である。

東京書籍は、各節の第1単元に節全体にかかわる「探究課題」があり、「探究のステップ」を行うことで、「まとめの活動」につなげるというように、単元全体の流し方がわかりやすく設定されている。1時間ごとの展開も「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」の流れがしっかりと構造化され、授業の見通しが立てやすくなっている点が優れていた。

思考力等を育成する点については、各節の終末には思考ツールを使用してまとめる活動を取り入れている。それぞれの思考ツールの具体的なポイントを示すなど、思考力等を育てる授業をしやすくするための工夫が優れている。

また、教科書を貫く「人権・平和」などの5つのテーマが現代的な諸課題として設定され、よりよい社会の実現を視野に入れた学習も展開しやすくなっている。

教育出版は、「地理の技」のコーナーで地図やグラフの読み取り方などの基本的な技術を身に付けさせるための工夫がなされている。また、「学習課題」から「確認」までの流れが設定されており、問題解決的な学習を進めるための1時間の展開がしっかりと示されている。

思考力等を育成するために「読み解こう」のコーナーでは、本文の流れを確認しながら、資料を多面的・多角的に考察する学習の展開が工夫されていた。

帝国書院は、導入、学習課題、本文、説明しよう・確認しようと1時間の学習の展開がしっかりと示されている。また、「技能をみがく」のコーナーが23テーマ設定され、地理的な見方・考え方を働かせるうえで大切な技能

を身に付けさせる工夫が優れていた。

思考力等の育成の視点からは、「節の学習を振り返ろう」で3つのステップを踏まえながら自分の言葉で表現したり、話し合いをしたりする活動が設定されていた。

日本文教出版は、各見開きのページに「学習課題」と「確認」が設定されている他、「見方・考え方」のマークも示され、1時間の展開がわかりやすく示されている。また、「トライ」のコーナーで、地理の学習で必要とされる情報の読み取り技術を向上させるための工夫が設定されていた。

思考力等の育成では見開きのページごとに「深めよう」のコーナーで、地理的な課題の解決に向けて考えたり、話し合ったりする活動が設定されているほか、「チャレンジ地理」でも、学習内容を深めるための課題が提示され、説明したり議論したりする活動を通して力を高めていけるよう工夫がされていた。

その他の視点として、今後の教育ICT化との関連で見ると、各社ともデジタルコンテンツを取り入れ、生徒が主体的に学習課題を追究できるよう工夫を凝らしている。

以上4社の教科書を比較検討した結果、川口市の生徒によりふさわしい地理の教科書は東京書籍であると考えられる。

理由としては、単元ごとに「探究課題」から「まとめの活動」と単元を貫いた課題追究の展開がわかりやすく提示されているほか、時間ごとの流れもしっかりと示されるなど、授業を展開しやすくする工夫が優れていること。思考ツールを様々な場面で活用したまとめの活動を効果的に行うことで、思考力等の育成を図るのに優れていること。どの生徒でも学びやすくするための表記、デザイン等が優れていることが挙げられる。また、学校報告書でも他社の教科書より高い評価を得ていた。以上である。

茂呂教育長
齋藤委員

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

地理の教科書について伺う前に、種目がたくさんあるので、社会科全体について質問をさせていただきたいが、教育長よろしいか。

茂呂教育長
齋藤委員

よろしい。

では、中学校社会科という教科はどのような教科で、どのような力を育てようとしているのか。

向井指導主事

新学習指導要領の社会科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す」としている。また、教科の構成として中学校社会は、1・2年生で地理と歴史を3年生では歴史と公民を学習する。

齋藤委員

先ほどの社会科の目標に「社会的な見方・考え方」という言葉があったが、

この意味について教えていただきたい。

向井指導主事 「見方・考え方」については、以前の学習指導要領でも見られたものだが、新学習指導要領では各教科において、改めて重点的に取り上げられている。

その中で「社会的な見方・考え方」とは、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法（考え方）」とされている。

具体的な例を示すと、東京書籍地理の109ページを見ると、「州別に見たアメリカの人口構成」という資料がある。この図を「ただ気付いたことを読み取る」のではなく、「ヒスパニックの割合が多いのはアメリカのどのあたりだろう」と「位置・分布」の視点をもって資料を読み取る、これがいわゆる「社会的な見方・考え方」の一例となる。

中田委員 分野がいろいろある社会科の授業を進めるにあたり、川口の生徒や先生方の現状としては、どんな様子なのか教えていただきたい。

向井指導主事 まず、新学習指導要領では、社会科の課題として「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分」と指摘している。社会科は全国学力・学習状況調査のような指標がないが、国語などで自分の考えをまとめる、自分の言葉で表現することに課題が指摘されていることから、川口の生徒においても同様の課題があるものと考えている。

また、川口市の中学校社会科を担当する教員の年齢構成は、40歳未満が全体の4分の3を占め、本採用者の経験年数の平均も10年未満となっている。このことから指導経験の少ない教員が多いということも言えると捉えている。

中田委員 多面的・多角的に考察するなどして表現する力の育成が不十分ということだったが、そのような力をつけるためには、どのような授業を行っていけばよいと考えているか。

向井指導主事 社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成していくためには、一斉指導で知識を羅列する授業ではなく、教科書の資料や本文などの資料を基に、比較する、関連付ける、多面的・多角的に考察する学習活動を繰り返していくことが大切であるとする。また、表現の仕方についても自分の言葉でまとめるだけでなく、多様な表現の仕方を経験させることで、力が高まっていくものと考えている。

宿谷委員 先ほどの説明で、社会科は若手の先生が多い傾向が強いように感じたが、どのような教科書であれば、指導経験の点をカバーできると考えているか。

大場専門委員 指導経験の少ない若手の教員にとっては、授業の展開が構造化され、どの

このような力を育成するために、地理の教科書ではどのような工夫がされているか。

大場専門委員 各社とも、「地理的な見方・考え方」を生かして資料を読み取ったり、1時間のまとめの段階で「説明しよう」「まとめよう」といった展開をつくったりするなど、考察や表現する力を育成するための工夫がされている。このような学習活動を毎時間積み重ねていくことで考察や表現する力が高まっていくものと考えられる。

また、各社とも単元のまとめに語句や分かったこと、考えたことなどを表やチャートに整理する活動が見られる。具体的な例として、東京書籍113ページをご覧いただきたい。ここではクラゲチャートと呼ばれる思考ツールをまとめとして活用している。このような図を使って視覚的にわかりやすくまとめるといった活動も考察や表現する力を育成していくうえで大切なものとする。

菅原委員 川口市には若い先生が多く、展開の仕方がわかりやすい教科書の方が指導しやすいとのことであった。専門委員としては、東京書籍を評価されているが、どのような点が優れていると考えるか。

大場専門委員 東京書籍の104ページをご覧いただきたい。まず、学習課題として「北アメリカの農牧業には、どのような特色があるでしょうか」という課題を立てている。この学習課題を写真やグラフ、地図などの資料を生かして追究していく。そして最後に「アメリカの企業的な農業の特徴を、他地域との関係に着目して説明する」というまとめにつながっていく。このように、1単位時間の構成は「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」で構成されている。この流れについては、各社とも設定し、学習を展開していくための工夫がされている。

続いて103ページをご覧いただきたい。東京書籍では学習課題とともに、節の第1単元に探究課題を設定し、単元を貫く課題をしっかりと設定している。各社とも単元を貫く課題を設定しているが、東京書籍は探究課題の答えを予想させるなど、展開をより丁寧に示している点が優れていると考える。

齋藤委員 地理の教科書では地図や統計、グラフ等の資料の活用が大事だと思うが、この視点から見ると、どのような特徴が見られるか。

大場専門委員 地図については、東京書籍、帝国書院の2社が地図帳を発行しているため、この2社はそれぞれの地図帳と連携した分かりやすい地図を使用している。また、帝国書院の171ページをご覧いただきたい。帝国書院では日本の各地方の学習の際に、その地域の特産品などを記したイラスト図を導入に持ってくるなどの工夫がある。他には、東京書籍の186、187ページをご覧いただきたい。同縮尺の地図を並べることで比較しやすくするなどの工夫もある。

また、各社とも比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察できるよう

な写真、グラフなどの資料が豊富に揃えられている。

- 宿谷委員 日本領土等について、地理の教科書ではしっかりと取り扱っているか。
- 大場専門委員 例えば、帝国書院の18ページから21ページには「領土」「領海」等の意味や、日本の領域、特に竹島、尖閣諸島、北方領土については詳しく取り扱っている。帝国書院以外のいずれの教科書も、日本の領域について詳しく取り扱っており、学習指導要領の内容を満たしていると考えている。
- 茂呂教育長 学校の報告書でも、東京書籍の評価が高いが、現場の先生方の意見には、特徴的な点があるか。
- 大場専門委員 学校報告書を見ると、同程度の評価のものも含むが、26校中20校が東京書籍を一番よいと評価している。具体的には東京書籍の教科書について、「生徒の思考力を育成するツールなどが存分に入っている」「思考ツールや単元を貫く課題などの記載があり、見通しがつけやすい」など、思考力の育成や学習の進め方に対して評価する意見や、写真・グラフ・地図などの資料を評価する声が見られた。
- 茂呂教育長 他にはいかがか。
無いようなので、地理については以上とし、引き続き歴史に移る。
それでは、次に歴史について調査研究の報告をお願いします。
- 大場専門委員 歴史の教科書は東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、育鵬社、学び舎の合計7社である。
東京書籍は、地理と同様に各節の第1単元に節全体にかかわる「探究課題」があり、「探究のステップ」を行うことで、「まとめの活動」につなげるという単元全体の流し方がわかりやすく設定されている。1時間ごとの展開も「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」の流れがしっかりと構造化され、授業の見通しが立てやすくなっている点が優れていた。また、各ページにスキルアップのコーナーがあり、資料を読み取るための基礎的基本的な技能が身につくよう工夫されていた。
思考力等の育成については、思考ツールに整理する活動や「探究のステップ」から段階的に課題解決をさせるなど、思考力等を生かした活動が充実している。
ユニバーサルデザイン等について、UDフォントやカラーUDだけでなく、資料部分の下地に色を付けるといった細かい部分まで配慮がされていると評価されていた。
教育出版は、1時間単位の学習課題が明確に示され、「確認」で授業の内容の理解を確認、「表現」で成果をつかませるといった流れで構成されており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる工夫がされている。また、節の最後には「節をとらえる」コーナーが設けてあり、歴史の大きな流れを確認することができるようになっている。
また、「歴史の技」では「系図を読み解こう」など、歴史を学習する上で身

に付けたい技能を取り上げ、段階的に技能を身に付けさせる工夫があった。

帝国書院は、単元を貫く「章の問い」「節の問い」「学習課題」を示しており、ねらいを明確に意識させるとともに、見通しをもった学習を展開することができる構成となっている。また、「技能をみがく」のコーナーが12テーマ設けられ、歴史の見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能を段階的に身に付けることができるようになっている。

「未来に向けて」のコラムは43テーマ設定されており、環境などSDGsに関わる話題や人権、平和など、現代の諸課題とつながる内容について知ることができ、よりよい社会を築いていくための意識を高めることができるようになっている。

山川出版社は、導入の資料や発問、学習課題、本文の学習内容や諸資料、そして「ステップアップ」による学習のまとめで構成されており、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができるようになっている。

また、資料に発問を付けることで、「歴史的な見方・考え方」を働かせて学習に取り組みさせる工夫や、時代ごとに「まとめ」のページが設定し、多面的・多角的に歴史的事象の意味・意義を考察する学習活動が設定され、思考力等を育てるための工夫がされている。

日本文教出版は、1単位時間の課題が明確に示され、ねらいを意識させながら学習を進めることができるとともに、単元ごとにも「学習の整理と活用」のページによって、各時代の特色を明らかにする学習活動が展開されている。

また、学習ページごとに「見方・考え方」や「深めよう」のコーナーがあり、「歴史的な見方・考え方」を働かせる場面が意図的に設定されているほか、「チャレンジ歴史」のコーナーは、学習を通して、段階的に課題にせまるとともに、他者と議論する場面が効果的に設定されるなど、思考力等を育成するための工夫がされている。

育鵬社は、章のはじめに「鳥の目」「虫の目」のコーナーを設け、歴史の大まかな流れを捉えるとともに、「歴史的な見方・考え方」を働かせる活動を設定している。

また、「歴史のターニングポイント」では、それぞれの立場から意見を出し、議論する課題が設定されるなど思考力等を高めるための工夫がなされている。

伝統や文化等の視点では巻頭に「日本の美の形」をカラーで年代順に載せ、文化遺産として尊重する姿勢を示したほか、「人物クローズアップ」で歴史上の人物を多く取り上げ、業績などを詳しく紹介している。

学び舎は、他社と異なりA版サイズを採用し、全体が大きめで資料も見やすいレイアウトとなっており、生徒が学習に取り組みやすくなっている。

また、単元ごとに見開きページで世界地図を中心に導入資料を示すとともに、単元の学習課題を設定したり、日本の歴史的背景として世界の歴史を多

く取り上げたりするなど、国際的なかわりに視点を当てた学習活動を展開する工夫がされている。

思考力等の育成の視点では、「歴史を体験する」のコーナー等で考えたことを話し合ったり発表したりする活動を取り入れ、思考力等の育成を図っている。

その他の視点として、ICT化との関連で見ると、東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版はデジタルコンテンツを取り入れ、生徒が主体的に学習課題を追究できるよう工夫を凝らしている。

以上、7社の教科書を比較検討した結果、川口市の生徒によりふさわしい歴史の教科書は東京書籍であると考えます。

理由としては、単元ごとに「探究課題」から「まとめの活動」と単元を貫いた課題追究の展開がわかりやすく提示されているほか、時間ごとの流れもしっかりと示されるなど、授業を展開しやすくする工夫がなされ、時代の特色をとらえやすくなっていることが挙げられる。

また、地理と同様に思考ツールを様々な場面で活用したまとめの活動を効果的に行うことで思考力等の育成を図るなど、思考力等の育成を図る学習活動が優れていること。

その他として、どの生徒でも学びやすくするための表記、デザイン等が優れていることも挙げられる。また、学校報告書でも他社の教科書より高い評価を得ていた。以上である。

茂呂教育長
齋藤委員

ただいまの報告について質疑を行う。質問はあるか。

先ほど地理でも伺ったが、歴史の場合は、どのようなことを目標に授業を行うのか。

向井指導主事

歴史的分野の具体的な目標を簡単にまとめると、次のようになる。

我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。歴史に関わる事象に意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移等に着目して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。といったものが歴史的分野の目標になる。

中田委員

「社会的な見方・考え方」について説明をしていただいたが、歴史の教科書では、どのように扱われているのか。

大場専門委員　　まず、学習指導要領の歴史的分野では「社会的な見方・考え方」について、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」と表現されている。さらに「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」と整理している。

このようなポイントを各社とも教科書の中に取り入れている。東京書籍や日本文教出版では、具体的に「見方・考え方」のコーナーをつくり、推移や比較などの具体的な視点に着目できるような工夫がとられている。

菅原委員　　課題とされている「多面的・多角的に考察するなどして表現すること」については、各社の歴史の教科書では、その力を育成するためにどのような工夫がされているか。

大場専門委員　　各社とも、地理と同様に「歴史的な見方・考え方」を生かして資料を読み取ったり、1時間のまとめの段階で「説明しよう」「まとめよう」といった展開をつくったりするなど、考察や表現する力を育成するための工夫がされている。

具体的な例として、東京書籍96、97ページをご覧いただきたい。ここでは、X・Y・Wチャートと呼ばれる思考ツールをまとめとして活用している。これらの思考ツールは歴史的な事象を多面的・多角的に捉えるにはとても有効的なツールである。また、このページでは古代と中世を同じチャートで比較する活動も取り入れており、歴史的な事象の推移といった「歴史的な見方・考え方」も同時に働かせるなどの工夫も見られる。

宿谷委員　　学習の展開の仕方は、地理と歴史に違いはあるか。

大場専門委員　　学習の展開の仕方については、基本的な流れは変わらない。地理的分野と同様に、1単位時間の構成は「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」で構成されている。この流れについては、各社とも設定し、学習を展開していくための工夫がされている。

また、地理的分野と同様に東京書籍では学習課題とともに、章の第1単元に探究課題を設定し、各節ごとに探究のステップを踏ませ、各章の探究課題を解決する流れになっている。教育出版、帝国書院、日本文教出版も単元毎の課題を設定しているが、東京書籍は探究のステップを取り入れるなど、展開をより丁寧に示している点が優れていると考える。

宿谷委員　　歴史の目標で、「歴史上の人物と文化遺産を尊重しようとする大切さ」について説明があったが、それらについては各社どのように扱われているか。

大場専門委員　　各社とも歴史上の人物や文化遺産などについて、人物のコラムや遺跡、文化財などを様々な方法で紹介している。また、各社とも世界遺産や国宝についてはそれぞれマークを付けて分かりやすくする工夫がされている。

調査員会・学校報告とともに評価の高い東京書籍では、世界遺産、国宝だけではなく、重要文化財、世界の記憶、無形文化遺産についてもマークを付け、

より詳細にわかるようになっている。

菅原委員 目標の中に「よりよい社会の実現を視野に」という言葉があったが、教科書ではどのように扱われているか。

大場専門委員 各社とも「よりよい社会の実現を視野に」という点で、様々な活動や学習の展開を工夫している。例えば、帝国書院は「未来に向けて」と題した43テーマのコラムを採用したり、日本文教出版では最後に『「歴史との対話」を未来に活かす』の中でよりよい社会の実現を視野に入れた活動を取り入れたりしている。東京書籍では、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」といった5つのテーマを地理・公民分野ともに共通の設定とし、「歴史にアクセス」や「もっと歴史」のコーナーなどと関連付けて取り扱っている。

茂呂教育長 他にはいかがか。

無いようなので、以上で歴史について質疑を終わり、続いて公民に移る。では、公民について調査研究の報告をお願いします。

大場専門委員 公民の教科書は東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の6社である。

東京書籍は、地理・歴史と同様に各節の第1単元に節全体にかかわる「探究課題」があり、「探究のステップ」を行うことで、「まとめの活動」につなげるといふ単元全体の流し方がわかりやすく設定されている。1時間ごとの展開も「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」の流れがしっかりと構造化され、授業の見通しが立てやすくなっている点が優れていた。

また、地理・歴史と同様に思考ツールを生かしたまとめが、「みんなでチャレンジ」では、グループで協力しながら取り組むことのできる学習活動が設定されるなど、思考力等を育成するための工夫が優れていた。

「18歳へのステップ」「もっと公民」では、身近な内容を学習活動に取り入れることで、社会に参画する態度を育めるよう工夫されていた。

教育出版は、導入、学習課題の提示、課題の追究、「確認・表現」と1時間の学習の流れがわかりやすく設定されている。また、章のまとめではステップを踏んでまとめを行う構成となっていた。

思考力等の育成では、各章の導入に「見方・考え方」がまとめられている他、「公民の窓」や特設ページ等考えを深めるためのテーマや仕掛けに工夫が見られる。また、ページの下部にSDGsとのかかわりを表記する、「私の提案」により現代社会の課題について議論することで思考力等を高めるだけでなく、主権者として社会に参画する意識を育てることができるといふ工夫もある。

帝国書院は、全体の構成として、単元を貫く「章の問い」や「節の問い」が提示され、生徒が見通しをもって学習活動に取り組むことができる。また、1時間ごとの学習においても「学習課題」から「振り返り」までの流れが示

され学習しやすくなっている。

思考力等の育成では、章のまとめで3つのステップを踏んで自分の考えを説明する、「Y e s N o」のコーナーで賛成・反対の意見を掲載し考えさせることで多面的・多角的に考察するといった様々な学習活動を取り入れている。

各部の導入では、架空の「はるの市」のイラストを使い、地域社会と各部の学習との関連づける、「アクティブ公民」で現代の社会生活に関連するテーマを取り扱うといった社会参画を視野に入れた工夫も評価されていた。

日本文教出版は、教科書全体を通して、「見方・考え方」が示され、学習課題の把握、追究、まとめまでの展開が構造化され、問題解決学習を展開しやすくなる工夫がされている。また、「アクティビティ」や「深めよう」を生かして、学習内容の理解を深める工夫も見られる。

「チャレンジ公民」のテーマは「個人と社会とのかかわり」について学ぶことのできる内容で、対話的な学びや見方・考え方を働かせた深い学びにつながるることができる。

「明日に向かって」のコーナーは、SDG sを取り入れ、身近な社会の問題について考えを深めるとともに、社会参画を促す内容となっている。

自由社は、日本を支える公民として、持続可能なよりよい社会を努力してつくり、次の世代にそれを手渡していこうとする視点から、様々な学習活動が構成されている。1時間ごとの活動については「やってみよう」「調べる」「書き出す」といった学習活動が設定され、多面的・多角的に考察する工夫が見られる。

また、章末の「学習のまとめと発展」では、自分の考えを説明したり、論述したりする活動を取り入れて、「書く力」や「まとめる力」の育成を図ることができる。

育鵬社は、各章のはじめの「～の入り口」、章末の「～のこれから」が設定されており、学習活動の大きな流れがわかりやすくなっている。

「やってみよう」のコーナーで、ディベート討論やライフプランの設計を題材にする学習活動を設定し、多面的・多角的に考察する活動が設定されている。

また、グローバルな視点から、観光、伝統と文化、人権と多文化共生などの現代社会の課題に主体的に向き合えるような教材を取り扱っている点が評価されていた。

その他の視点として、ICT化との関連で見ると、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版はデジタルコンテンツを取り入れ、生徒が主体的に学習課題を追究できるよう工夫を凝らしている。

以上、6社の教科書を比較検討した結果、川口市の生徒によりふさわしい公民の教科書は東京書籍であると考えられる。

理由としては、地理・歴史的分野と同様に、単元ごとに「探究課題」から「まとめの活動」と単元を貫いた課題追究の展開がわかりやすく提示されているほか、時間ごとの流れもしっかりと示されるなど、授業を展開しやすくする工夫が優れていること。

思考ツールを様々な場面で活用したまとめの活動や「みんなでチャレンジ」のコーナーでの対話的な活動など、思考力等の育成を図るのに優れた学習活動が設定されていること。

「18歳へのステップ」、「もっと公民」など、主体的に考え、社会に参画する態度を育成する工夫が優れていることなどが挙げられる。

また、学校報告書でも他社の教科書より高い評価を得ていた。

以上である。

茂呂教育長
齋藤委員

ただいまの報告について質疑を行う。何か質問はあるか。

地理・歴史でも伺ったが、公民の場合は、どんな目標で授業を行っていくのか。

向井指導主事

公民的分野の具体的な目標を簡単にまとめると次のようになる。

個人の尊厳と人権尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識する。民主主義、民主政治の意義、国民生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活および国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める。諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会にみられる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。現代の社会的事象について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。といったものが公民的分野の目標となる。

中田委員

公民では、「社会的な見方・考え方」というのは、教科書の中でどのように扱われていると捉えればよいか。

大場専門委員

まず、学習指導要領の歴史的分野では「社会的な見方・考え方」について、「現代社会の見方・考え方」と表現されている。さらに「社会的な事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること」と整理している。

このようなポイントを各社とも教科書の中に取り入れている。東京書籍や日本文教出版では、具体的に「見方・考え方」のコーナーをつくり、推移や比較などの具体的な視点に着目できるような工夫がとられている。

- 菅原委員 公民の場合は、「多面的・多角的に考察するなどをして表現する」ということを、東京書籍の教科書では具体的に教科書でどのように工夫しているのか。
- 大場専門委員 各社とも、地理・歴史分野と同様に「現代社会の見方・考え方」を生かして資料を読み取ったり、1時間のまとめの段階で「説明しよう」「まとめよう」といった展開をつくったりするなど、考察や表現する力を育成するための工夫がされている。
- 特に、東京書籍120ページをご覧いただきたい。ここではマトリックスやウェビングと呼ばれる思考ツールを各節のまとめとして活用している。これらのツールを活用し多面的・多角的に考察したのちに、各節の課題のまとめを作成することで、これらの課題の解決になるものと考え。
- 宿谷委員 地理と歴史では、学習の展開の仕方に違いはないということだったが、公民ではどうか。教科書には、どのように反映されているのか。
- 大場専門委員 学習の展開の仕方については、基本的な流れは変わらない。地理的分野、歴史的分野と同様に、1単位時間の構成は「課題の把握」「課題の追究」「課題のまとめ」で構成されている。この流れについては、各社とも設定し、学習を展開していくための工夫がされている。
- また、歴史的分野と同様に東京書籍では学習課題とともに、章の第1単元に探究課題を設定し、各節ごとに探究のステップを踏ませ、各章の探究課題を解決する流れになっている。教育出版、帝国書院、日本文教出版も単元毎の課題を設定しているが、東京書籍は探究のステップを取り入れるなど、展開をより丁寧に示している点が優れていると考える。
- 齋藤委員 先ほどの公民の目標についての説明で、「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」とのことだったが、それらについては教科書でどのように扱われているか。
- 大場専門委員 各社とも様々なコラムや活動を通して、主体的に社会に関わろうとする態度を養おうとする工夫が見られる。帝国書院では「アクティブ公民」のコーナーで自分が住むまちのまちづくりについてKJ法で分析し、予算案を考えるとといった活動が設定されている。
- また、東京書籍では終章「18歳へのステップ」「もっと公民」のコーナーで、身近な問題や国際的な問題など子どもたちが近い将来に出会う課題について考えさせるコーナーが設定されている。
- 宿谷委員 国旗や国歌、領土などの問題について公民の教科書ではどのように扱っているか。
- 向井指導主事 学習指導要領の内容の取扱いでは、「国旗及び国歌」について尊重する態度を養うように配慮する、「領土、国家主権」について竹島、北方領土及び尖閣諸島について取り上げることが明記されている。そのため、各社ともにそれぞれについて記述されており、学習指導要領の内容を満たしているものと考えている。

茂呂教育長 地理・歴史同様、社会科全般として、学校の報告書は、公民でも東京書籍の評価が高いが、現場の先生方の意見には、共通した点などあるか。

大場専門委員 学校報告書を見ると、同程度の評価のものも含むが、26校中18校が東京書籍を一番よいと評価している。具体的には東京書籍の教科書について、「東京書籍は、探究のステップがあり調べ学習に適している」「みんなでチャレンジの問いが身近でよい」といった学習のしやすさに関する意見や、「思考ツールを用いて単元のまとめが行われており、視覚的に訴える工夫がされていた」といった思考力の育成に対して評価する意見があった。

茂呂教育長 他に質問はあるか。
無いようなので、公民についての質疑を終え、最後に地図に移る。
それでは、地図について調査研究の報告をお願いします。

大場専門委員 地図は東京書籍、帝国書院の2社である。
東京書籍は、地図の凡例や見方、使い方、主題図のタイトルや縮尺、色分けの読み取り方などが詳しく説明されていた。また、地理の教科書に沿った探究課題の解決に役立つ「テーマ資料」が充実している点が評価されていた。
巻末には「資料索引」のコーナーが設定されており、生徒が資料を活用した学習を主体的に進められるような工夫もあった。

帝国書院は、各ページに「地図活用」のコーナーが設定され、地図への興味・関心を高めたり地図活用の技能などを身に付けたりするための工夫がある。また「資料図」のページには学習課題が設定され、着目すべき点が明確になることで思考力等を養うことができる。

デザイン等の観点から見ると、これまでのAB版からA版へとサイズが大きくなり、一つ一つの資料が大きくなることで見やすくなっている。また、タイトルやページ番号などの基本的なレイアウトが統一されている、国名や首都だけでなく主要都市の文字にも白い縁取りを入れる、同緯度・経度の日本が地図中に表現されているなど、細やかな点まで配慮がなされており、調査員会では高く評価されていた。

以上、2社の地図を比較検討した結果、川口市の生徒によりふさわしい地図は帝国書院であると考えます。

理由としては、まず配色、レイアウト等のデザインの観点から、地図がとも見やすいという点が挙げられる。地図帳は地理を中心に、歴史、公民の授業の中で活用されるが、見やすいという点は大きなアドバンテージになるものと考えている。また、「地図活用」のコーナーのように、地図帳そのものを使って生徒の力を高めることができる点も評価の理由である。

以上で、説明を終わりにする。

茂呂教育長 ただいまの報告について、質疑を行う。質問はあるか。

中田委員 ここまで専門委員の報告や説明では、地理・歴史・公民ともに東京書籍が高い評価となっているが、地図だけ帝国書院となっても手続き的に問題はな

いのか。

向井指導主事 地図の選定については、地理・歴史・公民の採択と関係なく採択をして問題はない。そのため、前回の教科書採択においても、地理・歴史・公民については東京書籍。地図は帝国書院となった。

大場専門委員 地図の選定については、利便性という観点から同じ教科書会社に揃えるという手段がないわけではないが、中学校社会科では地理・歴史・公民・地図がそれぞれ独立して採択となっていることから、専門委員会としては地図も一つの分野として単独で検討した。

菅原委員 地図の調査研究をするにあたっては、どのような点を重視したか。

大場専門委員 地図帳の活用方法としては、授業の中の課題を解決するために、地図帳から地理的な見方をもって、情報を抜き出すことが求められる。そのためには、まず見やすく、目的とするものがわかりやすく取り上げられていることが大切であると考えている。

そのためには、配色の工夫やグラフ、イラストといった資料がバランス良く配置されていることが、地図を選ぶうえでの重要な視点であると考えている。

齋藤委員 地図を東京書籍にして統一する利点もあると考えられるが、それについてはどう考えるか。

大場専門委員 ご指摘の通り、地図の選定について「教科書会社をそろえる」ことで使いやすくなるという考えもある。しかしながら、デザインや課題設定、それぞれの図の工夫等、調査委員会、学校ともに帝国書院を高く評価しているので、揃えることの利点を超える良さを帝国書院の地図が持っているものと考えている。

宿谷委員 領土については、しっかりと記述されているのか。

大場専門委員 2社の地図帳とも竹島、尖閣諸島、北方領土についてしっかりと記載がなされており、学習指導要領の内容を満たしていると考えている。

茂呂教育長 他にご質問はあるか。

無いようなので、以上で公民の質疑を終わり、採択に入るがよろしいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 それでは、社会(地理)、社会(歴史)、社会(公民)及び地図の教科書を決定していきたいと思う。各教科書について、一括してご意見をお願いします。

宿谷委員 地理については帝国書院がよい。理由としては、領土領海を明確に断言しており、領土領海は国家の根幹を示すものがよい。歴史に関しては、学校報告書の評価もよく、単元を貫く課題を追究しやすいなどの思考力の育成や学習の進め方に対して評価できるので東京書籍がよい。公民については、学習のしやすさ訴える工夫があるので東京書籍がよい。地図は技能や地図の見方、考え方を身に付けることができ、専門委員の説明にもあったとおり見やすいので、帝国書院を推薦する。

菅原委員 地理については、帝国書院を新鮮な感じで受け止めたが、1年、2年、3

年と学び、積み上げていくときに同じ思考ツールで勉強した方が川口の生徒にとってよいと考えるので、地理、歴史、公民については東京書籍を推薦する。地図については、見慣れているということもあるが、比較していろいろな地域を見てみたところ、帝国書院の方が見るだけでなく活用方法や、地図から情報を取り出すことも考えられるので帝国書院がよい。

齋藤委員 地理、歴史、公民について東京書籍を推したい。三者が一体となってアプローチしていくことや、導入の仕方も統一してあり、スムーズに子どもたちにインパクトを与える。地図はさらに帝国書院の方が見やすくなったと感じたので、帝国書院を推薦する。

中田委員 他の委員と同様に地理、歴史、公民については東京書籍がよい。地図に関して比較してみると、圧倒的に見やすいので帝国書院がよい。今の川口の現状に合っていることや、今まで使っていたということもあるので帝国書院がよい。

茂呂教育長 歴史、公民について東京書籍を推す声が多い。東京書籍に決定してよいか。
委員 (異議なし)

茂呂教育長 地図については帝国書院を推す声が多いので、帝国書院に決定してよいか。
委員 (異議なし)

茂呂教育長 地理については、宿谷委員から帝国書院を推す声があり、その他の委員からは東京書籍を推す声があった。学校報告書を参考にしてみると、東京書籍を推す意見が多い。専門委員からも東京書籍を推すということで、東京書籍を採択するというのでよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 では、確認する。社会(地理)は東京書籍、社会(歴史)は東京書籍、社会(公民)は東京書籍、地図は帝国書院を採択することに決定してよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 以上で、社会(地理)、社会(歴史)、社会(公民)、地図について協議を終わる。ここで、暫時休憩とする。10分程度。

(社会・地図専門委員、事務局 退室)

(数学専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長 議事を再開する。

専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、数学の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただきます。

それでは、お願いします。

阿部専門委員 数学科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版の合計7社である。

調査員会では、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、前回の調査報告書を参考に内容を精査し、川口市の生徒の実態と教師の指導力の実態を踏まえて検討してきた。

中学校数学科においては、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとする「数学的に考える資質・能力」を育成することを目指している。

そのためには、「よき学習者」として、主体的に問題に取り組み、友達との関わりの中で考え方や方法を統合・発展し、問題に対する最適解・最善解に自らの力でたどり着く問題解決能力の向上が必要不可欠であると考え。

そのような点を考慮したとき、7社とも、生徒一人ひとりが主体的・対話的に深く学べるよう編集の工夫をされていた。

最初に、調査員会の報告書を基に、全7社の教科書の特徴やよさについて報告する。

東京書籍は、ねらいが明確であり、問題も良質であるため、生徒にとって学びやすいものとなっている。また、生徒が見通しを持って主体的に取り組めるよう、問題発見・解決の進め方が提示されている。さらに、章末では、数学が実社会で活用されている例を示したり、実社会のデータ活用を体験的に学んだりすることで、数学のよさと、数学の学びが将来につながる実感できる。

大日本図書は、章の導入が新設され、生徒のキャラクターの登場で、見通しを持ちやすくなった。また、「社会にリンク」では、仕事の中で、数学を使っている人のインタビュー記事が掲載されており、数学がさまざまな職業で生かされていることを実感し、学習意欲が高まるように工夫されている。なお、教科書に登場する6人の生徒は、男女偏りなく掲載され、髪型などを多様にし、服装も男女差をなくして、性的マイノリティの生徒にも配慮されている。

学校図書は、働かせたい「数学的な見方・考え方」が可視化されており、数学的活動のしかけも充実している。また、目標の前に数学的な問いが置かれているので、生徒は問題解決の見通しをもつ力を養うことができる。さらに、「トライ!」や「Tea Break」、「深めよう!」「さらなる数学へ」で補充的、発展的な内容を豊富に用意し、生徒の実態に応じて学習が進められるようになっている。

教育出版は、すべての章のとびらで、写真を掲載し、数学が日常生活や実社会に利用されていることがわかる。また、数学的な見方・考え方が可視化されていて、巻頭の折り込みを開くと、どのページで学習していても数学的な見方・考え方の一覧を見ることができる。巻末には、小学校で学習した内容をコンパクトにわかりやすくまとめられていたり、生徒の興味・関心に応じて高等学校の学習内容に触れられたり、小・中・高連携についても配慮されている。

啓林館は、教科書が必修部分とオプション部分の2部構成となっている。学校の授業における学びを想定した必修部分「みんなで学ぼう編」では、学ぶべき基礎・基本を習得するとともに、数学を活用して身の回りの事象を解決していく内容が充実している。また、オプション部分「自分で学ぼう」では、「算数を振り返ろう」や「学びをいかそう」など生徒の興味・関心に応じて自由に組みめるようにしている。

数研出版は、基礎的・基本的な内容を学びながら数学を活用する力をつける本冊と、学んだ力を活用して探求的・総合的な課題に取り組む別冊で構成されている。また、中1ギャップを考慮し、1年では、問いの表現を小学校式にしたり、別冊で高等学校の内容にも触れることができるようにしたりするなど発達段階に配慮する工夫もされている。

日本文教出版は、本時のめあてや例・問の意図を明確にすることで学びやすくなり、生徒は基礎的・基本的な内容が確実に身につけることができる。また、章のはじめには既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が設けられ、生徒はつまづきを未然に防ぎ、これまでに学んだことを次の学習に生かせるように配慮されている。

続いて、学校からの報告書について、報告する。

東京書籍は、「日常に関連した例が多く、興味深く、教師が指導しやすい。」「全体のレベルが高く、問題解決型の学習に適していた。」「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるような導入の工夫がなされている。」といった所見があった。

大日本図書は、「登場人物の対話で様々な考え方が提示されており、生徒にとってわかりやすいつくりになっている。」「図やイラストがシンプルで見やすい。」「重要語句が太字で、文字の大きさが1ポイント大きくしている。」といった所見があった。

学校図書は、「巻末に小学校との系統性がわかるための工夫がされている。」「イラストに工夫が見られ、説明がわかりやすい。」「学ぶべき重要な数式や語句などがわかりやすく標記されている。」といった所見があった。

教育出版は、『学びのマップ』の小学校の振り返り、章毎のまとめの記載など丁寧な説明となっている。」「数学的活動を行うための手立てがわかりやすく示されている。」「数学を学ぶ意味を感じさせるインタビュー記事も良

い。」といった所見があった。

啓林館は、「日常生活との関わりを取り上げ、数学の有用性を実感できる構成となっている。」「説明する力、伝え合う活動への配慮がされている。」「生徒が様々な問題を考えたいとする主体性が期待でき、視点を変えた問題や実生活と関わりのある問題もあり、好感が持てた。」といった所見があった。

数研出版は、「生徒が見通しを持ちやすい。」「日常の事象に関連させつつ、わかりやすい導入問題、問題を解く上でのヒントが適切だった。」「高校への繋がりを意識した作りになっていて、1つの例題に対して、いくつかの解法を例示していた。」といった所見があった。

日本文教出版は、『対話ノート』が指導にいかせると感じた。」「単元前にレディネステスト等があるのがよい。」「単元の振り返りがあるのがよい。」といった所見があった。

さらに、保護者の方からは、「中学に入り、最初につまずく負の数をどうするのか拝見しました。各社とも工夫が見られました。自身の苦勞を考えると、どれがよいのか甲乙つけがたい。」との意見があった。

以上のように、どの教科書もそれぞれの特徴とよさがあるが、「新学習指導要領の趣旨」や「川口市の実態」及び「目指すべき方向性」を踏まえたとき、調査員会及び学校からの報告で最も高い評価を得たのが啓林館である。

先程述べた内容に加え、さらに啓林館の優れている点を説明させていただく。1点目は、働かせたい「数学的な見方・考え方」が可視化されており、生徒たちは、学びの中から、自然とそれらを価値づけることができ、数学の学習だけでなく、社会生活での課題に対しても役に立つ見方・考え方を身につけていくことができることである。

2点目は、数学を学ぶ意義や有用性が実感できる構成になっており、問題の難易度も含めた質や量のバランスがよい点が挙げられる。生徒の思考に添った扱い易いものから徐々にスモールステップで難易度を上げ、学びの記録を残すことにより、個に応じた習熟を図ることができるようになっている点は、習熟差の大きな本市の生徒の実態に適していると考えられる。

3点目は、QRコンテンツや無料動画コンテンツを始めとしたICTコンテンツが充実している点。補習、補講時の活用や、予習・復習や既習事項の振り返りなどの家庭学習の充実を図ることができるので、様々な実態のある本市生徒にとっては大変有益なものであるとともに、将来の「GIGAスクール構想」を見据えたものになっている。

以上のことにより、総合的に判断して、専門委員としては、啓林館が最も適切な教科書であると考えられる。

茂呂教育長
宿谷委員

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

数学の教科書は7社と多くある。川口市では、今年度まで啓林館の教科書だったが、これまで他社を採択したことはあったのか。

- 中山指導主事 平成18年～23年度、平成28年度～令和2年度の採択は啓林館だったが、それ以外は東京書籍を使用していた。
- 宿谷委員 関連して質問するが、県内の採択状況は、現在どうなっているか。
- 中山指導主事 令和2年4月現在使用している教科書は、25採択地区中11地区が啓林館、14地区が東京書籍である。
- 齋藤委員 数学は得意な生徒もいる一方で、苦手な生徒も多い印象があるが、県や全国の学力学習状況調査の結果から見て、川口市の数学の課題は、どのような点か。
- 中山指導主事 昨年度の結果によると、いずれの領域においても平均に達していないことから、基礎的・基本的な知識や技能の習得が最大の課題である。また、記述式の正答率が低く、思考力、判断力、表現力の育成も課題であると捉えている。
- 齋藤委員 今答えていただいた課題を踏まえると、採択にあたって重視すべき点はどんな点になるか。
- 阿部専門委員 ポイントは大きく3点ある。
1点目は、これまでの本教科書による指導が着実に成果に繋がってきていることから、従来通り、観点1の「社会生活に活用できる知識・技能の習得」ができるかという点。
2点目は、習熟差の大きな本市の生徒の実態に対応できるよう、個に応じた習熟を図るように工夫されているかという点。
3点目は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「数学的な見方・考え方」が育成できるように配慮されているかという点である。
- 菅原委員 先ほどの説明にもあったかと思うが、「社会生活に活用できる知識・技能」の習得には、どのようなことが大切か。
- 阿部専門委員 習熟を図る上でも、式の計算や方程式を解く際は、その手続きの基礎に概念や原理・法則があることや、概念や原理・法則をうまく使って数学的な処理の仕方が考え出されることを理解することが大切である。
そのためには、自分の考えを説明したり、話し合ったりする授業展開が必要である。また、繰り返しの練習も大切だと考える。
- 菅原委員 「社会生活に活用できる知識・技能」の習得という点では、ある程度の問題量が必要だと思うが、それについては各社を比較してどうか。
- 阿部専門委員 章のはじめ、節末、章末、巻末等にある演習・まとめのページについて、中学1年の教科書を比較したものを例に説明する。
各社を比較すると、東京書籍93ページ、大日本115ページ、学校図書110ページ、教育出版74ページ、啓林館118ページ、数研出版94ページ、日本文教出版126ページという結果であった。
- 中田委員 先ほどの説明の中にもあった言葉だが、「数学的な見方・考え方」とはどういうことか説明していただきたい。

- 中山指導主事 新学習指導要領では、「数学的な見方・考え方」とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」と定義されている。
- 生徒は、数学的活動を通して「数学的な見方・考え方」を育み、自在に駆使できるようになる。
- 中田委員 今の説明にあった「数学的活動」とはどんなことをいうのか。
- 中山指導主事 数学的活動とは、「生徒が目的意識をもって主体的に取り組む数学に関わりのある様々な営み」のことを言う。
- 具体的には、「数や図形の性質などを見いだす活動」「数学を利用する活動」「数学的に説明し伝え合う活動」がある。
- 茂呂教育長 今回、調査報告書では、調査委員会・学校ともに啓林館の評価が高いというデータが出ているが、啓林館が優れている点はどんなところにあるか。
- 阿部専門委員 大きく3点ある。
- 1点目。節の導入等で、生徒が興味・関心を持てるように、身のまわりの題材などを取り上げている。数学が生活や社会の中で有用に働いていることを実感しながら、生徒が主体的に学習に取り組めるようになってきている。
- 2点目。問題の質・量ともに充実している。セルフチェックシート「学びのあしあと」を活用し、自らの理解の定着を確認しながら確かな学力が身に付く。
- 3点目。授業の中で自然にふれた数学的な見方・考え方を改めて振り返ることによって、今後の数学の学習だけではなく、社会生活での課題に対しても役立つ見方・考え方を身に付けていくことができる。
- 齋藤委員 数学が苦手な生徒をはじめ、支援を必要とする生徒への配慮という点では、啓林館の教科書はどうか。
- 阿部専門委員 啓林館の教科書では、「クッキーのレシピ」、「店でのおくじ引き」等、生徒が数量の関係をイメージできるように、生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げている。
- また、文字の書体や大きさ、字間、行間などは見やすく、読みやすいように配慮されているといった特徴がある。
- 茂呂教育長 他に質問はあるか。
- 無いようなので質疑を終わる。
- これより採択に入るがよいか。
- 委員 (異議なし)
- 茂呂教育長 それでは、数学の教科書を決定していく。各委員、何か意見はあるか。
- 菅原委員 総合的な点から啓林館がよいと思う。今回だいぶ工夫された点があり、「自分から学ぼう編」が目にとまる。できる生徒、できない生徒、もっと伸びたい生徒にも対応している。問題量について質問したが、これぐらいの量は欲しい。専門委員の考えや、学校の報告でも評価されていたことも理由のひとつ

つである。

- 宿谷委員 啓林館がよいと思う。生徒が興味、関心をもって取り組める題材があり、文字も見やすい。
- 齋藤委員 自分の学習の到達度が可視化できる点、セルフチェックシートで意欲が高められる点などを評価して啓林館を推す。
- 中田委員 啓林館がよい。今までも啓林館を使用しており、今回、色々と工夫している点が面白いと思った。
- 茂呂教育長 これまでの協議の内容や各委員の御意見から、啓林館を推す声が多いが、数学の教科書は啓林館を採択することに決定してよいか。
- 委員 (異議なし)
- 茂呂教育長 以上で数学について協議を終わる。ここで暫時休憩とする。1時間程度。
(数学専門委員、事務局 退室)
- 茂呂教育長 (理科専門委員、事務局 入室)
議事を再開する。
専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。
そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。
これから、理科の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。
それでは、お願いする。
- 市川専門委員 新学習指導要領理科の目標は、「理科の見方や考え方」を育成することを重要な目標として位置づけている。このことを踏まえ、今回の改訂では、子どもたちに育むべき資質能力を「知識・技能の定着」、「思考力・判断力・表現力等」そして、「学びに向かう力・人間性等」とし、この三つを柱に目標を整理している。
川口市の生徒の実態として、理科が好きと答える生徒が小学校の児童に比べ減少し、理科の有用性を意識できないという現状を改善する必要がある。このため、身近な自然事象から課題を見出し、観察・実験を中心とした探究の過程を通じて、自ら課題を解決し、解明できた事象を生活に活かしていくことが大切であると捉えている。このことが、理科の有用性の向上につながっていくと考える。
また、近年、川口市の中学校理科の教職員は20代から30代が中心となり、若手教員が増加傾向にある。若手教員に対しても、自校の生徒の実態に応じて、見通しがもてる理科指導が行える教科書でなければならないと考えている。

このことを踏まえ、専門委員会では、1点目、これからの時代に共通に求められる力として、問題解決の能力をより一層子どもたちに育むこと。2点目、観察・実験の結果などを整理・分析したうえで、それをもとに解釈・考察・説明できる資質能力を育むこと。3点目、学校の生徒の実態に応じて、柔軟に授業構成が編制できることを踏まえ、5つの教科書会社を調査した。各社の教科書について個別に報告する。

まず、東書について。

調査員会の報告では、イラストを使って、考え方の流れが説明されているため、自学的に進めるのに適していること。A4スリム判になったことで、1ページに1時間の内容が収まり、見通しを持ちやすいこと。ユニバーサルデザインにこだわり、配色やデザインが工夫されていて見やすいということが挙げられていた。

学校の報告では、コラム欄が充実していて、学習内容を生活に結び付ける工夫がされているという意見や、独自のレイアウトの工夫が見られ、生徒の興味を引く構成となっているといった意見があった。

次に、大日本について。

調査員会の報告では、小学校からの理科の系統性をしっかりと示していること。基本的な学習の流れをベースとしているため、理科教員が自校の生徒の実態に応じて授業を組み立てやすいこと。身近な事象から課題を見だし、実験までの流れを1ページで表し、結果と考察を次ページで表示する構成が全ての実験のところで示されており、授業構成を組み立てている上で使い勝手よいつくりになっていることが挙げられていた。

学校の報告では、1單元ごとのまとまりが明確であり、授業を進めやすいという意見や、日常生活と関連した内容がわかりやすく示されているといった意見が多く見られた。

次に、学校図書について。

調査員会の報告では、イラストよりも写真を多用しており、生徒の実験・観察に関して、わかりやすいつくりとなっていること。必要な情報を厳選しており、シンプルでわかりやすいつくりになっていること。「Can-Do-List」といった自己評価シートやQRコードの補助資料の充実、探究の過程が生徒にも、教員にもやりやすいつくりとなっていることが挙げられていた。

学校の報告では、話し合いなどの場面が多く、「学びあい」という観点で優れているといった意見や、単元の導入時に学ぶべきことと目的が明確に描かれてあり、目的意識を高める工夫がされているといった意見があった。

次に、教育出版について。

調査員会の報告では、ハローサイエンス欄や発展欄において、その分野で活躍した人物や、日常生活に関連した内容を掲載していること。主体的・対

話的な学びを促す活動を行うために、「やってみよう」「考えよう」「話し合おう」「活用しよう」の様々な場面を示していること。「学習前の私」と「学習後の私」で自分の成長を確認でき、学習意欲を高めることができることが挙げられていた。

学校の報告では、探究活動に特化しているといった意見や、学習テーマがわかりやすいといった意見があった。

最後に、啓林館について。

調査員会の報告書では、実験の手順など図を用いて紙面を多く使い分かりやすく説明していること。試薬や、実験経過における色の変化は写真を用いているため、結果観察の判断がしやすいつくりになっていること。単元の最初に「何を学ぶのか、どのように学ぶのか」の説明があるので、生徒自身がどのように学習を進めていくのかがわかりやすいことが挙げられていた。

学校の報告では、巻末の「探Qシート」がよいといった意見や、QRコードが家庭での学習に向いているといった意見が見られた。

以上のことから、総括すると、学習の流れや学び方がシンプルにつくられているのが大日本図書と学校図書と教育出版。イラストや鮮やかな写真を多用し、生徒の興味・関心を惹きつけるつくりが東京書籍と啓林館であると考ええる。

どの教科書も、川口市の理科の課題である、「身近な自然事象から課題を見出し、観察・実験を中心とした探究の過程を通じて、自ら課題を解決し、解明できた事象を生活に活かしていくこと」という理科の有用性の観点は十分満たしていると思う。その上で、初めて教壇に立った教員でも、問題解決の流れがより明確に示されている教科書であり、実験観察の技能が高められるという視点や学校や地域の実態に応じて柔軟に理科指導が行えることが大切であると捉えている。

その点を考えると、専門委員会としては、「大日本図書」が最も適した教科書であると考えている。以上である。

茂呂教育長 ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員 他の教科でもあったが、「理科の見方・考え方」とは具体的にどのようなものをいうのか。

川島指導主事 理科の見方や考え方とは、エネルギー・粒子・生命・地球といった各領域における自然の事物・現象を捉える視点や考え方のことを言う。具体的には量的・関係的な視点で捉えること、質的・実体的な視点で捉えること、多様性・共通性の視点で捉えること、時間的・空間的な視点で捉える視点が大切となる。

齋藤委員 先ほどの説明にもあったが、川口市の生徒の実態として、「理科が好き」と答える生徒が小学校の児童に比べ減少し、理科の有用性を意識できないという現状は、どのような原因があると考えているか。

- 川島指導主事 本市の生徒の課題として、大きく2点が挙げられる。
まず1点目に、知識・理解、技能の定着に大きな差がみられること。2点目に、探究活動をするために必要な思考力・判断力・表現力の育成が十分でないことと捉えている。
これらは、自分達の生活に理科がどのように活かされているのか理解できていないことや、学習内容が高度になるとともに、小学校の理科にはない計算を伴う単元が多くあることから、苦手意識を持つ生徒が増加しているものとする。
- 中田委員 理科における「探究の課程」とは、どんなことを言うのか。
- 川島指導主事 理科における探究活動の過程とは、大きく分けて3つある。
1つ目は、生徒が、自然の事物・現象に触れ合う中で、進んで興味・関心を抱き、問題や課題を発見し、疑問を持つこと。2つ目は、その課題を解決するために予想や仮説を立て、実験方法を考え、進んで観察、実験などを行うこと。3つ目に、その実験観察結果を整理・分析し、考察したことを相互に話し合う中で、結論を導く一連の学習の過程を言う。最終的には、このことを通して科学的な見方や考え方を育むことをねらいとしている。
- 菅原委員 川口市の理科の教職員は「20代から30代が中心」と説明があったが、実際に全体の何%ぐらいが20代から30代なのか。
- 川島指導主事 20代が33.7%、30代が42.7%で、20代から30代で中学校理科教員全体の75%以上を占めている。また、経験年数に関しては、市内全理科教職員の平均は約9.3年である。
- 菅原委員 そのような実態を踏まえて、生徒にとって、よりよい教科書は、特に報告書の観点のうち、どの観点を重視すべきだと考えているか。
- 市川専門委員 この実態を踏まえて、理科に関する視点から特に2つ、報告書の観点のうち、①の「自然の事物・現象と日常生活との関連付けが図られた構成」と②の「見いだした問題に対して、予想や仮説をもたせ、探究する学習活動を重視した構成」の2つの観点を重視すべきであるとする。
- 宿谷委員 問題解決の能力を一層育むとのことだが、具体的に、教科書を使ってどのようなことをすることで育むことが出来るか。
- 市川専門委員 問題解決の能力を育むために、生徒が自分事として課題に向き合い、見通しをもって取り組めるかどうかであるとする。そのために、教科書の役割として、課題設定が身近な生活の中から見出せるつくりになっているか、自分の力で問題解決に向かわせるために、見通しがもてるつくりになっているか大切であるとする。
- 齋藤委員 専門委員の説明にあった「生徒の実態に応じて、柔軟に授業構成が編制できる」とことは、どのようなことか。
- 市川専門委員 川口市における生徒の実態は、地域や学校によって違う。例えば、基礎的・基本的な学習を踏まえた「知識・技能」を課題としている生徒。自分の考え

を他者に分かりやすく表現し、相手の考えと共有する協働的な学びにつなげることを課題としている生徒。学んだことを次の学習や自分の生活にどのように生かしていくのかといった「学びに向かう力」を課題としている生徒。それぞれ課題の違う生徒を、授業で把握し、実態に応じた授業構成ができる教科書でなければならないと考える。そのために、1点目として、基本をしっかりと抑えながら、2点目として、わかりやすく、見やすい、さらに3点目として、授業者の理科の専門性を取り入れやすいといった観点が重要であると考えた。

茂呂教育長 調査員会では大日本図書が適切との報告だったが、学校報告の評価とは違いが見られる。専門委員会としてどのように判断するか。

市川専門委員 学校報告書からは、東京書籍や啓林館の評価が高かったということが見受けられる。これら2社は、イラストや漫画、鮮明な写真を多用し、とても印象的なものとなっていた。学校報告ではそのような点において高評価をしたものと考えられる。

しかしながら、川口市の生徒の実態や課題は、学校や地域によって大きく変わる傾向にある。その中で、大日本図書の教科書は、教職員の世代やキャリアに左右されることなく、基本的な流れをおさえ、生徒の実態に応じて、その学校の理科教員が授業を構成しやすいものであると専門委員としては考えた。

付け加えると、東京書籍や啓林館を高評価にしている学校でも、大日本図書が上位に位置付けているところも多く、数値上で大日本図書が一番でない学校でも、所見では「大日本は使いやすい」といった意見は出ている。

茂呂教育長 専門委員は、大日本図書が最適であるとしているが、その良さについて端的にまとめると、どのような理由か。

市川専門委員 主な理由として、3つの点が挙げられる。

1つ目は、小学校からの理科の系統性をしっかりと示していること。2つ目は、基本的な学習の流れをベースとしているため、理科教員が自校の生徒の実態に応じて授業を組み立てやすく、川口市の現状に適していること。3つ目は、身近な事象から課題を見だし、実験までの流れがわかりやすく、生徒にとっては見通しがもちやすいこと。以上である。

茂呂教育長 他に質問はあるか。

無いようなので質疑を終わる。

これより採択に入るがよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 それでは、理科の教科書を決定していきたいと思う。ご意見はあるか。

齋藤委員 大日本がよい。特に小学校からの流れを振り返ることができる点、系統だっていることが感心させられる。

中田委員 学校現場の評価が高いので、先生たちが感じ取ったものもあると思うし、

使いやすいと感じたのだと思うので東書がよい。

宿谷委員

専門委員や事務局の説明から大日本がよい。

菅原委員

東書の導入が大変よい。子どもの主体性を伸ばすには、子どもにクエスチョンを持たせることが大事だと思う。学校の意見でも評価が高いし、東書にしてみてもよいと思うので推したい。

茂呂教育長

意見が割れたので、事務局として、学校訪問等で様子を見たうえで実態等を判断すると、どこに課題があるのか。

川島指導主事

訪問を通して、学校や地域によって課題は大きく違うと言える。基本をしっかり押さえ、実態に応じて教員の専門性を活かすという点で、川口の実態には大日本が合っていると考える。

茂呂教育長

子どもたちに求められている力、これからの時代に求められる力、川口の実態から考えたときに、調査委員会や専門委員の意見では大日本を推している。そういう視点から大日本を推したいと考える。

意見が割れたが、学校の意見も踏まえたうえで、理科は大日本図書を採択することに決定してよいか。

委員

(異議なし)

茂呂教育長

以上で、理科について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。続いて、音楽の専門委員と事務局の入室を求める。

(理科専門委員、事務局 退室)

(音楽専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長

専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、まず、音楽（一般）の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

その後、音楽（器楽）の教科書について、ご説明いただき、質疑に入るので、よろしくをお願いしたい。

それでは、お願いします。

磯専門委員

音楽について報告する。音楽科の教科書は「教育出版」「教育芸術社」の2社からの採択となる。2社の教科書について、調査したことを「音楽（一般）」「音楽（器楽）」と種別に報告する。

では、音楽一般について、それぞれ報告する。

まず、「教育芸術社」について。

調査員会の報告では、学習について重要な〔共通事項〕を色付きで掲載したことで、視覚的にも学習のポイントが効果的に示されている。また、写真

の扱いが美しく豊富であることで、曲や歌詞の解釈を理解しやすく学習できる。また、レイアウトもシンプルでユニバーサルデザインの観点からも工夫されており、教材に一体感があることからイメージを持って活動することができる。さらに、写真や地図なども効果的に使われており、音楽が系統的に学べるという点について優れていると考える。

学校の報告書では、小学校からの9年間を通した学びがわかりやすく系統立てられ、目標が明示されている点が良いこと、また、写真などの資料が充実しており、活用しやすいなどの意見があった。

保護者の意見はなかった。

次に「教育出版」について申し上げる。

調査委員会の報告では、楽曲の内容について分かりやすい言葉で説明があり、「学びのユニット」と呼ばれる、学びを深めるための手がかりとなる工夫がされている。また、鑑賞の領域は、それぞれの演奏の特徴を捉えることによって、我が国と諸外国の違いを文化や民族性などから感じ取る学習を進める等の特徴がある。

学校の報告書では、巻末に見開きで大きく美しい写真と多種多様な楽曲で生徒の興味関心を持つ工夫がされている。また、書き込み欄があり、授業での活用が見込めるとの意見があった。

保護者の意見はなかった。

どちらの教科書も特徴とよさがあるが、生徒たちの興味・関心を惹く楽曲が多いという点、また、幅広い無理のない音楽が指導できるという点、さらに、学習指導要領の「生活や社会の中の音楽や文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」という観点からも検討した結果、調査委員会の報告、学校の報告ともに、教育芸術社が高い評価であるということから専門委員としては、教育芸術社を推薦する。

茂呂教育長 ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員 音楽の授業で生徒に身に付けさせたい力は何か。

平澤指導主事 新学習指導要領での改訂は、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質能力を育成することを目指す」とあり、幅広い活動を通して、音楽と主体的に関わり、心豊かな生活を営むことにつなげるための資質・能力を育成するということである。

中田委員 学習指導要領の目標にある、「音楽的な見方、考え方を働かせ」とはどのようなことか。

平澤専門委員 学習指導要領解説「音楽編」によると、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽のよさや美しいなどの質的な世界を価値のあるものとして感じ取るときの心の働きを意味しており、自己のイメージや感情、生活や社会の、伝統や文化などに関連付けた学習活動を行うことである。

菅原委員 教科書そのものについて伺いたいのだが、2社それぞれの教科書の特徴は、

どんな所にあるか。

磯専門委員 どちらの教科書もICT教育の観点から、より学習を深めるための工夫がなされている。教育出版では、「まなびリンク」というウェブサイトが利用でき、教科書の内容にリンクした動画、音声、ワークシートを使用できる。教育芸術社もそれぞれの題材の必要とされる学習をQRコードの利用で学ぶことができる。

菅原委員 教育出版は、「学びのユニット」があるという説明だったが、教育芸術社の方はどうか。

磯専門委員 教育出版の「学びのユニット」は、教材を大きく取り上げ、その教材を通して学習を進めるためのねらいや活動等が記載されている。

教育芸術社では、その学年の大きな学習の目標が学習指導要領の教科の目標に即しており、各領域の学習を進めるための教材が示され、学習を進めていくということが明記されている。

茂呂教育長 教育芸術社は、「教材の特徴が捉えやすい美しい写真が豊富」という説明だったが、具体的にどのようなところか。

磯専門委員 教育芸術社「2, 3下」の10から15ページをお開きいただきたい。「花」の掲載ページとなっている。見開きで大きく、曲をイメージできる美しい写真と歌詞が掲載されており、その次ページからは、楽譜が載っている。これは、学習が一連の流れで行うことができ、効果的であると考えます。また、教育出版も同様の「花」は表紙裏に美しい写真が載っており、学習するページが12ページにある。

宿谷委員 「我が国や郷土の伝統音楽、諸外国の音楽」という項目があるが、両社の扱いはどうなっているか。

磯専門委員 両社ともに、特徴があり、工夫がされている。教育出版は、我が国の作品から諸外国へと関連した教材を取り扱っている。教育芸術社は、伝統文化及び諸外国の音楽が学年ごとに複数の教材が取り扱われており、系統的に学べる工夫がされている。

宿谷委員 ユニバーサルデザインの観点から、それぞれの教科書の工夫はどのようにされているか。

磯専門委員 両社とも特別支援教育の観点からユニバーサルデザインへの取り組みがなされている。

教育出版では、各項目の帯の色が統一されており、文字や楽譜など太・細文字を使い分けユニバーサルデザインの見地からも見やすい工夫がなされている。

教育芸術社は、歌詞を含め、9割以上UDフォントを使用しており、楽譜・写真などユニバーサルデザインの観点からの工夫がされている。また、写真に歌詞を入れる時には、無地の部分に白文字で配置することで、視認性の高い紙面構成になるよう工夫されている。

- 茂呂教育長 他に質問はあるか。
無いようなので、音楽（一般）の質疑を終わる。続いて、音楽（器楽）について専門委員から説明をお願いする。
- 磯専門委員 続いて、器楽について「教育芸術社」から報告する。
調査員会の報告では、一般編の教科書と同じように学習目標やそれに迫るための活動文、学習を深めるための共通事項等の流れが統一されており、自分の技術段階に合わせた練習曲が豊富に掲載されているため、主体的に学習を進めることができる。また、多くの学校で扱われている箏についてもわかりやすく示されている。鑑賞教材の補助として学んだことを活かせる点、創作の学習を発展させることができる点が優れていると考える。
学校からの報告書では、楽器の奏法や姿勢の写真が見やすく、資料によって説明がよりわかりやすく示されていること、和楽器についても姿勢や礼儀等、詳しく説明されており、日本の伝統文化の理解に発展させることができること。また、QRコードを利用し、師範演奏を聴くことでより曲のイメージがしやすいという意見が多くあった。
保護者の意見はなかった。
次に、「教育出版」について申し上げる。
調査員会の報告書では、器楽演奏に必要な手立てとして、「学びのねらい」「学びのポイント」「まとめの曲」「学習評価」が一連の流れとなっており、学習を見通せる構成になっている。
学校からの報告書では、WEBリンクにつながることでインターネットを利用し、学習を深めることができる。また、練習曲のジャンルが豊富であり、興味を引きやすい。という意見があった。
保護者の意見はなかった。
以上のように、器楽もそれぞれの教科書の特徴とよさがあるが、生徒の興味・関心を引き、主体的に学習を進め、活動を通して音楽を感じ取ることができるという点が調査員会の報告と学校の報告から教育芸術社が高い評価であった。また、学習指導要領の「生活や社会の中の音楽や文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」という目標から検討した結果、専門委員としては、教育芸術社を推薦する。
- 茂呂教育長 ただいまの説明について質疑を行う。質問はあるか。
- 中田委員 器楽の教科書のそれぞれの特徴は何か。また、中学校の器楽で演奏される楽器には、どんなものがあるか。
- 平澤指導主事 教育芸術社は、一般と同様、音楽科の目標でもある「生活や社会の中の音や音楽」に目を向け、器楽の学習を通して、社会とつながる学習の工夫がされている。
教育出版は学習の見通しを持ち、ポイントに沿って学びを進めることができるよう工夫されている。

また、中学校で演奏する楽器には、小学校から系統立てた学習としてリコーダーがある。中学校では、アルトリコーダーを演奏するということが多かったのが、最近の学習では、小学校で扱ってきたソプラノリコーダーも継続して演奏している。また、打楽器や和楽器等も取り扱う。

齋藤委員

演奏について、教科書にはどんな工夫がされているか。

磯専門委員

両社とも取り扱う楽器について基礎知識や、基本練習などベーシックな段階から、演奏ができるようになってくると、他者との二重奏、多種類の楽器を扱ったアンサンブルにと段階的、発展的に学習を進めることができるようレイアウトされており、生徒の技術レベルに合わせた練習曲が豊富に掲載されている。

特に、教育芸術社では、リコーダーに関する曲数も多く扱われており、生徒が興味を持って取り組める多様な曲が難易度によって掲載されている。

齋藤委員

楽器については、それぞれどのような扱いになっているか。

平澤指導主事

各校の実情に合わせて、リコーダーや和楽器を学習している。

教育出版は、息を入れる楽器、弦をはじいて鳴らす楽器と、楽器のまとまりごとに掲載され、音色を感じ取れるよう工夫されている。

教育芸術社は、はじめは一人で、そして二人でというように、発展できるように工夫されている。また、他者と合わせて演奏することで、多くの素材とコミュニケーションを図りながら、対話的な学習に気づくことを大切にしている。

宿谷委員

和楽器を扱ったそれぞれの教科書の特徴は何か。

磯専門委員

本市では、「箏」の演奏を行う学校が25校と多くある。これは、鑑賞曲と合わせて、箏の演奏の表現学習を行えるという点にある。また、箏は和楽器の中でも音を容易に鳴らすことができ、体験活動が進めやすいという点がある。

教育出版は36ページから、教育芸術社は40ページをご覧いただきたい。どちらの教科書も姿勢や構えなどわかりやすく、楽器の説明も詳細に記述され、興味深く学習を進めることができるよう工夫されている。

さらに、教育出版は、親しみのある楽曲が掲載されており、練習を進めることができるようになっている。

教育芸術社は、易しい箏曲で練習できるように掲載されている。また、鑑賞で行った「六段の調」の奏法を数種類紹介しており、学習をした楽曲の奏法を用いて演奏ができ、体験することによって、より興味深く学習を進めることができるよう工夫されている。

茂呂教育長

音楽のような実技の教科書では、生徒が学習内容を見て、どんな学習をするのかわかるようになっていることが大事だと思うが、教育芸術社の「学習を可視化するポイント」とは何か。

磯専門委員

教育芸術社は、新学習指導要領に示された3つの資質・能力とそれに対応

する学習内容や教材を示した「学びの地図」となる内容が配置されている。これによって、学習を通して身に付く力は何かを可視化することができ、学習を深めることができる。また、音楽を形づくっている要素についても、統一した表記がされていることによって学習のポイントとなり、主体的に取り組むことができる。

菅原委員 では、今のお答えを受けて伺うが、教育出版の方では、楽器の取り扱いの特徴が優れている点は何か。

磯専門委員 同じ奏法同士の楽器の音色や楽曲を聞き比べる「何が同じで、何が違う？」ということから、共通性と固有性という観点から楽器を学ぶことができ、音楽文化を通して、我が国の文化と外国の文化の理解を深めることができる点である。

菅原委員 掲載されている曲は、両社どのくらいあるか。

磯専門委員 両社とも総ページ数は106ページと同じである。扱っている曲数の多寡はあるが、教育出版は146曲、教育芸術社は、191曲とどちらも多く掲載されている。これは、生徒が自分の演奏技術に見合ったレベルの曲から主体的に習得することができ、無理なく学習を進められると考える。

また、両社ともに、練習曲の選曲においては、クラシックの名曲のフレーズから、話題のアニメ、ポップスなど生徒の興味関心を惹くものばかりで、独奏（主体的）や重奏、アンサンブルや合奏（対話的で深い学び）など多様な演奏形態を体験することができる。

茂呂教育長 他に質問はあるか。

無いようなので質疑を終わる。

これより採択に入るがよいか。

委員 （異議なし）

茂呂教育長 それでは、音楽の教科書を決定していきたいと思う。音楽（一般）と音楽（器楽）について一括してご意見を伺いたい。いかがか。

菅原委員 2社しかないが、楽曲数から見て、多彩で生徒の主体性や興味関心を引くという報告からも教育芸術社がよい。

宿谷委員 一般は、伝統文化の取り扱いということで教育芸術社を、器楽は学習のポイントのまとめりから教育芸術社を推す。

齋藤委員 おおむね同じ意見だが、一般では、親しみやすくメッセージ性の強い曲は子どもの主体性を生むので教育芸術社を推す。また、器楽は、親しみやすいものから難易度を上げていける点からも教育芸術社を推す。

中田委員 皆さんと同じで、両方とも教育芸術社がよろしいかと思う。

茂呂教育長 それでは、これまでの協議の内容や各委員の御意見から、音楽については一般、器楽ともに教育芸術社を推す声が多いので、音楽（一般）、音楽（器楽）については、教育芸術社を採択することに決定してよいか。

委員 （異議なし）

茂呂教育長 以上で、音楽について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。引き続き、美術の専門委員と事務局の入室を求める。
(音楽専門委員、事務局 退室)

(美術専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長 専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、美術の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いします。

小出専門委員 美術について報告する。次の3点を踏まえて協議を進めた。

1点目は、「川口の生徒の課題」である。「美術を愛好し、主体的に創造する力」「美術と生活や社会を関連させ、美術について深く考える力」が課題となる。2点目は、「美術を教える教師の課題」、3点目は、「学習指導要領改訂の趣旨及び要点と指導事項を確実に指導する」という点である。

以上を踏まえた各社の特徴は、次の通りである。

まず、開隆堂である。

題材ごとに学習の目標が標記され、知識や技能に関する目標が示されており、巻末の「学びの資料」では、多様な表現方法や技法が分かりやすく紹介されている。生徒の制作の様子や言葉などにより、制作の意図や工夫が感じられる。また、各題材に、発想の仕方や手順が示され、生徒自らが考えることができる構成になっている。美術で学んだことを職業や社会に結び付けた内容を多数扱い、暮らしの中にある美術のよさが伝わってくる。また、造形作家や社会で働く人へのインタビュー内容を掲載し、ユニバーサルデザインや工芸などの学習に活かせる題材が豊富であること、美術と社会が密接に関わっていることが感じられる内容になっている。

次に、光村図書である。

生徒にとって必要な知識や技能が表現の頁に詳しくまとめられており、制作過程が写真や図等で紹介されているので理解しやすくなっている。巻末の「学習を支える資料」では、発想の方法や話し合いの方法が具体的に書かれていることで、発想の手立てとなっている。また、鑑賞作品の掲載の仕方が工夫され、生徒が新たな作品の見方や感じ方を深めることができる構成になっている。比較資料が多く、色や形、素材の異なる作品を一遍に見ることができ、生徒の発想が広がるようになっている。また、「鑑賞」を先に示すことで、表現と鑑賞の相互関係を意識した構成になっている。

最後に、日本文教出版である。

題材ごとに「造形的な視点」が設定され、作品から〔共通事項〕を意識して感じたり、気付いたりすることができるように工夫されている。また、題材ごとに、「学びの目標」が掲載され、身につけさせたい観点が明確に示され、それが評価の観点にもつながるのが特徴である。1つの題材の中に異なる表現方法・素材の作品写真が掲載されており、作者の言葉からも美術の働きについて考えられる構成になっている。また、各巻の冒頭で、美術のおもしろさや奥深さを伝える作品や著名人のメッセージを載せていて、興味・関心が高まる内容になっている。各題材において、生徒作品と作家の作品の比重を変えており、バランスがとても良くなっている。また、写真のアングルやレイアウトが工夫され、生徒の興味をひくことができる。人の暮らしに役立つデザインやアニメーションなどの内容が充実しており、美術と生活とのつながりが感じやすくなっている。

どの教科書も、川口の生徒の課題である力を養うには適していると思う。また、若手教員でも一定の水準で授業を行うことができると思うが、一方で詳細な解説や著名な作品の掲載が多いことは、生徒の考える力や発想の広がりや妨げることにもつながる。

その中で、日文は、生徒作品を数多く掲載し、「学びの目標」や「造形的な視点」、アイデアスケッチ等を示し、生徒自身が美術のよさや美しさを考えられる内容で、新学習指導要領にそった学びを展開できる構成になっている。また、大判で見やすく、工夫された鑑賞作品は、魅力的であり、生徒の興味・関心を高める。

よって、専門委員会としては、日文を推薦する。

茂呂教育長
齋藤委員

ただいまの報告について質疑を行う。何か質問はあるか。

これまでの採択状況を確認したいが、本市では、美術の教科書は、今までどこの教科書を使用しているか。

新居指導主事
中田委員

本市では、15年以上、開隆堂を使用している。

新学習指導要領において、美術で育成する資質・能力とは、どのようなことか。

新居指導主事

3点ある。1つ目に、造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫し、創造的に表すこと。2つ目に、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすること。3つ目に、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことである。

菅原委員

今の説明のような力を美術の授業で育成する上で、現状の課題はどんなことか。また、教科書としてはどのようなものが望ましいのか。

新居指導主事

課題としては、美術科教員は各中学校に1名程度であることもあり、特に

若手教員の中には、自分が教わった美術の内容、経験の中から授業を組み立てることで、内容の偏りがある授業が見られるという点が挙げられる。

教員が手本を示しすぎず、生徒自身の感覚、表現の思いなど、生徒自身が考える授業が大切だと考える。そのような構成が工夫されている教科書であれば、教員も授業がしやすいと考える。

茂呂教育長 今いくつか説明されてきた点や、新学習指導要領の指導事項を確実に指導するという点では、各社の教科書はどのように工夫しているか。

小出専門委員 開隆堂は、題材ごとに「育成する資質・能力の3つの柱」を授業の中心的な3つの目標として標記され、光村図書は題材ごとに造形的な見方・考え方に関わる目標が、表現と鑑賞の領域ごとに示されている。日文は、題材ごとに3つの柱に基づいた「学びの目標」が示され、身につけさせたい力が明確で、それが評価の観点にもつながるようになっている。さらに、「造形的な視点」が設定され、造形的な見方・考え方を捉える要素や、作品から〔共通事項〕を意識して感じたり、気づいたりすることができるように工夫されている。

宿谷委員 美術の場合、作品を作るということが重点になると思うが、制作過程や技術の習得には、各社どのように対応しているのか。

小出専門委員 光村図書、日文は、巻末の「学びを支える資料」、光村は52ページ、日文は44ページ、開隆堂は「学びの資料」34ページにおいて、多様な表現方法や技法がわかりやすく紹介されている。

宿谷委員 参考となるような作品の掲載資料や構成の仕方は各社どのように工夫しているか。また、「生活の中の色や形と、豊かに関わることができる」というポイントがあったが、各社どのように工夫しているか。

小出専門委員 開隆堂は、生徒の制作する様子や言葉などにより、制作意図や工夫が感じられるとともに、発想の仕方や手順が示され、次に行うことが分かりやすい構成になっている。

光村図書は、比較資料が多く、色や形、素材の異なる作品を一遍に見ることができる。また、「鑑賞」を先に示すことで、表現と鑑賞の相互関係を意識した構成になっている。

日文は、題材ごとに、生徒作品と作家作品の比重を変えており、バランスがよく、写真のアングルやレイアウトの変化により、生徒の興味をひくことができる。また、1つの題材の中に異なる表現方法・素材の作品写真が掲載されており、生徒の発想が広がる内容になっていることが大きな特徴である。

なお、有名な作家の作品と中学生の生徒の作品が同じページに同じテーマで掲載されることは、美術の教科書ならではの大きな特徴であり、その掲載の仕方は重要であると捉えている。

ポイントについて、開隆堂は、美術で学んだことを職業や社会に結び付けた内容を多数扱い、暮らしの中にある美術のよさが伝わってくる。

光村図書は、日本の伝統文化や芸術家の作品が大きく鮮明に掲載されている。

日文は、人の暮らしに役立つデザインの内容が充実しており、美術と生活とのつながりを強く感じることができる。また、作品ごとに示されている「作者の言葉」から美術の働きについて考えられるようになっている。

茂呂教育長

他に質問はあるか。

無いようなので質疑を終わる。これより採択に入るがよいか。

委員

(異議なし)

茂呂教育長

それでは、美術の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

宿谷委員

専門委員の説明にあった点から開隆堂がよい。

中田委員

今までずっと開隆堂だったが、日文が項目ごとにまとめられていて分かりやすいので日文がよい。

齋藤委員

日文は、生徒の作品が多く載っている。自分たちと同世代の作品があるのは、自分もやってみようというモチベーションにもつながると期待感がある。目標がはっきりしており分かりやすい。日文がよい。

菅原委員

日文がよい。学校の報告からもそうだが、表紙だけ見ても授業が終わってもとっておきたいと思うような、芸術性を喚起するもの。目標がはっきりしており、生徒作品、作家作品のバランスなど工夫して作った印象である。

茂呂教育長

日文を推す意見が多いことや、生徒や教師の課題と、学校報告から分析してきた内容からも考え、日本文教出版に決定してよいか。

委員

(異議なし)

茂呂教育長

以上で、美術について協議を終わる。ここで、暫時休憩とする。10分程度。

(美術専門委員、事務局 退室)

(保健体育専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長

議事を再開する。

専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、保健体育の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、願います。

岡安専門委員

まず、次の2点について確認し、これらを踏まえて協議を進めた。

1点目は、「新学習指導要領について」である。令和3年度より完全実施となる新学習指導要領の改訂の趣旨及び要点と、学習指導要領の指導事項を

確実に指導するという点である。

2点目は、「川口市の保健体育科の教員について」である。年齢が20から30代、採用から10年以内の教員が増えており、経験年数5年以内の臨時採用教員も市内に10名以上いるという状況であることから、「経験年数の浅い教員が、教科書を使った授業展開によって指導要領のねらいを実現できる教科書」という点である。

では、各社の教科書について個別に報告する。

まず、東書である。

調査員会の報告では、ページ末の「活用する」では、単位時間の内容をより深く考えさせる問いが設定されている。Dマークがついているページでは、インターネットを使った学習ができるようになっており、実習において動画などが使いやすくなっている。授業を進めるにあたり、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という学習段階がはっきりしており、主体的に学ぶための筋道が見えるようになっている。

学校報告書では、主に「資料・グラフが充実している。」「映像資料が活用でき、意欲の向上や理解しやすさにつながる。」という意見があった。

保護者の意見は特になかった。

次に、大日本である。

調査員会の報告では、見開き1ページを1単位としているところが特徴である。ページ左側が文章表記、ページ右側は補助的説明で、図、表、写真、イラストなどが大きく表示され、ユニバーサルデザインの視点から見ても、細部まで確認できる利点がある。また、各時間に「話し合ってみよう」「やってみよう」のコーナーがあり、考えること、話し合いを取り入れやすい内容となっている。

学校報告書では、主に「左右のページの内容が明確であり、分かりやすい。」「写真資料が充実している。」という意見があった。

保護者の意見は特になかった。

次に、大修館である。

調査員会の報告では、基本的な知識をおさえた上で、生徒がイメージしやすい例を用いて分かりやすくまとめられている。「課題をつかむ」から「学習のまとめ」までの流れが、生徒が主体的に学習をすることを容易にしており、「課題をつかむ・意見を出そう」では、日頃の生活に適した内容や質問が掲載されている。そのため、導入から話し合い活動に取り組みやすく、思考力・判断力・表現力等の育成を意識した内容となっている。「学習のまとめ」では教科書の中身をまとめるだけでなく、明るく豊かな生活を送るために、どのような実践をすれば良いか問題提起をしている点も優れている。

学校報告書では、主に「主体的に考えさせる構成になっている」「目標が明確でよい」という意見があった。

保護者の意見は特になかった。

最後に、学研である。

知識・技能の習得については、学習の流れが分かりやすく、理解を深められる資料が豊富である。また、「まとめる・深める」や章末の「探求しようよ」の内容が、主体的な学びを促したり、相手に伝える表現力の向上を狙ったりする内容となっており、指導要領改訂の観点に沿い、かつライフスキル教育への活用も容易な内容となっている。さらに、学習内容の進め方が掲載されており、教師目線でも学習の流れが明確に把握しやすい内容となっている。加えて、豊かなスポーツライフの実現につながる体育理論の分野も丁寧に解説している点も強調できる。

学校報告書では、主に「考える」、「調べる」の内容が思考・判断・表現の向上につながる。「主体的に考えさせる構成になっている」という意見があった。

保護者の意見は特になかった。

以上のことから、総括すると、4社とも、主体的取組や対話的活動を展開しやすい内容となっており、知識や情報をインプットし、整理し、アウトプットする力を養う、つまり思考力・判断力・表現力の育成に十分適していると思う。その点で言うと、どの教科書も新学習指導要領の改訂の趣旨及び要点を押さえたものであると言える。

その中において、学習の流れや要点が生徒目線でも、教員目線でも明確につかめ、体育理論の分野も丁寧に解説をし、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現により迫る内容となっているのは、学研である。

また、調査員会の報告からも、学校の報告からも、学研が最も高い評価となっている。

よって、専門委員会としては、「学研」が最も適切な教科書であると考えている。

茂呂教育長
宿谷委員

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

保健体育の授業の中で、保健の授業時間数はどのくらい行われており、どんな内容を指導しているのか。

米倉指導主事

保健体育の授業は3学年とも年105時間の配当となっている。

そのうち保健の授業は、3年間で48時間程度配当することとなっているので、各学年1年間で16時間程度行われることになる。また、教科書には保健に加え、「体育理論」の内容も含まれており、「体育理論」は各学年1年間で3時間以上配当することとなっている。

指導内容としては、1年は「健康な生活と病気の予防」「心身の発達と心の健康」「スポーツの多様性」、2年は「健康な生活と病気の予防」「傷害の防止」「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」、3年は「健康な生活と病気の予防」「健康と環境」「文化としてのスポーツ」を指導する。「健康な生活と病気の予防」については全学年を通じて指導する内容となっている。

- 齋藤委員 健康に関する内容が多く含まれているという話だったが、新学習指導要領となり、新しく追加された内容などはあるのか。
- 米倉指導主事 新しく、「がん教育」についての内容が、1単位時間以上の扱いとして大きく取り扱われるようになった。教科書の取り扱いで大きく取り扱っている例としては、大修館で80から83ページの4ページ、2単位時間分扱っていること。学研で90、91ページの1単位時間に加えて、102、103ページの章末で大きく扱っていることである。
- 中田委員 新しい学習指導要領では「思考力・判断力」に加えて「表現力」という要素が新たに追加されたと伺った。保健学習における、思考力、判断力、表現力とは具体的にどのようなもので、なぜ必要なのか。
- また、その「思考力・判断力・表現力」を効果的に高めていくためには、どのような授業が求められるのか。
- 米倉指導主事 保健学習における「思考力・判断力・表現力」とは、健康に関わる事象や健康情報などから自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるということである。
- これらは、現在及び将来の生活における健康に関する課題に直面した場合に、的確な思考・判断・表現等を行い、健康を適切に管理し改善し、健康で活力に満ちた、明るく豊かな生活にしていくために必要な力であると考えている。
- また、授業では、「主体的、対話的で深い学び」という視点からの授業改善が求められている。
- 講義形式の授業で、知識の伝達を行う授業だけではなく、生徒自身が主体的に調べたり、深く掘り下げて考えたりできる場面を設定する。また、仲間やグループでの対話的な活動を通して、相手の意見を受け入れ、考えを深めたり、自分の意見を相手に的確に伝えたりする場面を設定することが大切だと言われている。
- 中田委員 その「主体的・対話的で深い学び」を実現していくためには、どの会社の教科書が適切だと考えるか。
- 岡安専門委員 その点で、学研は、「まとめる・深める」や章末の「探求しようよ」の内容が、主体的な学びやさらに深い学びを促したり、相手に伝える表現力の向上を狙ったりすることが容易な内容となっている。また、1時間の流れには「個人の考えを持つ」、「仲間と共有、対話」、「個人の考えを深める」という流れが多く取り入れられており、仲間と対話を行ったことで広がった知識が、最終的に自分に返るという展開を実現できるようになっている。
- 以上のことから、主体的・対話的で深い学びを実現するという観点では、学研が特に優れた内容となっていると考える。
- 菅原委員 教科書を使用して、実際に保健体育の授業を行う上で、市全体の傾向や特

徴のようなものがあれば教えていただきたい。

米倉指導主事　まず、授業を行う保健体育科の教員には、最初の説明でも申し上げたように、年齢層の低い教員が多いことが挙げられる。具体的には、20代、30代の教員が全体の70%以上を占め、採用年数10年未満の教員も年々増えている。また、経験年数5年以内の臨時採用教員も現在市内に10名以上いるという状況であり、教員全体の指導経験が浅いということが挙げられる。

菅原委員　教員の年齢構成上、仕方がないこととは思うが、指導経験が浅いという点をカバーするという観点で見た場合に、どの教科書が優れているか。

岡安専門委員　その視点でも、やはり優れているのは学研だと考える。前述したように、主体的・対話的で深い学びを実現するための構成が分かりやすいため、経験の少ない教員でも、教科書の流れに沿って展開していくことで、学びを深められる内容となっている。

例えば、最初に話題に出た「がん教育」については、90、91ページに記載されているが、「課題をつかむ」でそれぞれが、がんについての疑問や知っていることを挙げ、中盤の「考える・調べる」では、資料から意見を出し合って予防策を考え、最後の「まとめる・深める」では身近な人にメッセージを伝えることで、さらに理解を深める展開となっている。このような流れが教科書として明確になっていることは、経験の少ない教員にとっても指導の助けとなるものと捉えている。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

無いようなので、質疑を終わる。

これより採択に入るがよいか。

委員　(異議なし)

茂呂教育長　それでは、保健体育の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

菅原委員　少し字が小さめなのが難点かとも思うが、川口の教員の構成や保健体育の授業の実態、教科書の指導内容のバランス、経験が浅い教員でも使いやすいという点が評価でき、学校の報告書からも調査員の報告書からも学研の評価が高いことから、学研がよいと思う。

齋藤委員　解説が細かく深いことから、学研がよい。中学生には少し難しいかもしれないが、ここまで知っておけば将来も役立つと思う。

中田委員　学研を推薦する。各社、自然災害等も扱っているが、学研が写真等もわかりやすく、流れが優れている。

宿谷委員　学研がよいと考える。「仲間と共有し、対話し、個人の考えを深める」という点でよい。

茂呂教育長　これまでの協議の内容や、各委員のご意見から、学研を推す声が多いようなので、保健体育は学研教育みらいを採択することに決定してよいか。

委員　(異議なし)

茂呂教育長 以上で、保健体育について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。続いて技術・家庭の専門委員、事務局の入室を求める。
(保健体育専門委員、事務局 退室)

(技術・家庭専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長 専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、技術・家庭の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

まず、技術分野について報告いただき、質疑を行う。その後、家庭分野について報告いただき、質疑を行う。最後に、技術、家庭のそれぞれの採択を行うので、よろしくをお願いしたい。

それでは、報告をお願いします。

瀬山専門委員 技術分野について報告する。

技術分野の学習では、技術分野の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成が求められている。

このような視点を含め、結論から申し上げて、調査員会の報告からも、学校の報告からも、東京書籍が最も高い評価であることを報告する。よって専門委員としては、東京書籍が最も本市の実態に即した、適切な教科書であると考えます。

では、各教科書について個別に報告する。

はじめに、東京書籍である。

調査員会の報告では、題材が魅力的で、写真やイラストが多く活用され、説明も丁寧で、生徒にとっても、また教師にとっても扱いやすく、学習が展開しやすい構成であること。今回の学習指導要領で示された技術分野の「技術の見方・考え方」のヒントが掲載されており、全体の内容を通して技術の見方・考え方に気づき、考える構成となっていること。また、中学校技術・家庭科に求められている問題解決能力について、各学習内容に問題解決のヒントとなるページ設定がしてあり、生徒が主体的に身につけられるような工夫がされている等の意見があった。

学校からの報告には、ユニバーサルデザインを取り入れた図や写真が見やすく生徒・教師とも扱いやすいなど、学習効果を高める資料が充実している点が多く挙げられている。これらの点が、実践的な活動を通して問題解決能力を身につけるために必要な知識・技能が習得できる構成となっていると考

える。

次に、現在使用している開隆堂である。

調査員会の報告では、特筆すべき点として各内容のまとまりを通して、トレードオフや最適化の考え方を身に付けられる構成になっていること。学習の流れが技術の見方・考え方を深める内容となっており、技術を用いた問題解決能力を育む内容が充実していること等の意見があげられた。

学校からの報告ではP D C Aや技術の見方・考え方がうまく取り入れられているなど、指導する内容の充実について多くの意見があった。

最後に、教育図書である。

調査員会の報告では、各内容とも学習観点に沿った構成であること。内容ごとに学んだことを振り返り、まとめることができるページが用意されていること等の意見があげられた。

学校からの報告では、別冊ハンドブックの活用における利便性の充実に関する意見が多くあった。

以上のことから、技術分野の見方・考え方を働かせ、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するという観点から総合的に判断した結果、生徒にとっても、また教師にとっても、よく分かり、扱いやすい適切な教科書は東京書籍であると考えます。

茂呂教育長 ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員 これからの社会においては、情報化など技術分野の力が重要だと思うが、専門委員会では、特に重視した点はどのような点なのか。もう少し詳しく説明していただきたい。

瀬山専門委員 重視した視点の1つ目は、技術の「見方・考え方」に気づかせ、課題の解決に必要な知識と技能を身につけることができる教科書であるかどうか。

重視した視点の2つ目は、生活の中から問題を発見し、課題設定から解決に向かわせる学習活動や、持続可能な社会への構築に向けて意欲的に取り組む教科書であるということ。

重視した視点の3つ目は、生徒達の実態に沿った教科書であると共に、教師が使いやすく、指導しやすい教科書であるということ。以上である。

菅原委員 川口市の生徒たちにとって学びやすい技術・家庭科（技術分野）の教科書とは、どのようなものか見解を教えてください。

瀬山専門委員 写真や資料、説明が分かりやすいもの、生徒の生活の実態に応じた内容のものが学びやすい教科書といえる。特に東京書籍は、写真や図を多く用いるなど資料がとても充実しており、説明も丁寧で学びやすく、わかりやすくなっている。

例えば、72、73ページの「材料と加工」の自習例をご覧ください。問題発見し、課題を解決する場面では、それぞれの内容の実習例において問題発見につなげるヒントが右上に掲載されており、生徒が考えを深め、より

よい解決策を見いだせる構成となっている。

宿谷委員 4年前に関東ブロック埼玉大会にて川口市の研究発表があったと伺った。その研究内容が川口の生徒にとって生かせるとしたら、どこの教科書と考えるか。

瀬山専門委員 結論から申し上げて「東京書籍」の教科書が適していると考え。平成28年10月に行われた関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会埼玉大会では、「教師の意図的・計画的な『働きかけ』による問題解決的な学習の充実」を中心とした研究に取り組んできた。東京書籍の教科書は、「技術のとびら」「テックラボ」「技術の匠」で実際にどのような問題解決にどんな技術を、どんな考えで用いているかが示されるなど、研究してきた問題解決的な学習に生徒が主体的に取り組める構成となっている。

茂呂教育長 東京書籍がよいと説明があったが、最初の質問における重視した視点の一つ「技術・家庭科（技術分野）の見方・考え方」などは、しっかり生徒が分かりやすいように説明できているのか。

瀬山専門委員 生徒が分かりやすいような説明がされている一例として、11ページのガイドランスのページをご覧いただきたい。

ガイドランスのページにおいて、新学習指導要領で示された技術・家庭科（技術分野）の見方・考え方を「最適化の窓のぞいてみよう！」として掲載すると共に、18ページや88ページなどをご覧いただきたいが、全ての題材の初めに「技術の見方・考え方」として丁寧に示されている。題材のスタートの場面でしっかりと技術分野の見方・考え方を確認できることは、今回の改訂の主旨として、とても重要であると捉えている。

齋藤委員 技術・家庭科（技術分野）を指導する、先生は各校に1人が基本だと思うが、現在の年齢構成など分かったら教えていただきたい。

村越指導主事 市内技術・家庭科（技術分野）教員26名のうち、5年経験以下の教員が4名、10年経験以下の教員が10名、あわせて14名が若い教員であり、そのほとんどが30代である。また、再任用が2名、時間講師の教員も1名おり、来年定年を迎える教員もいる。

このことから、今後の技術科は、若い教員が増加していくことが予想される。よって教師の指導力を高めていくことは喫緊の課題と捉えている。

中田委員 来年度からを予定しているGIGAスクール構想について、整備後は技術・家庭科（技術分野）としてどのように教科書を活用していくのか。

瀬山専門委員 東京書籍・開隆堂・教育図書3社とも、QRコードを掲載している。GIGAスクール構想の整備後は、まず、このQRコードを活用した授業を考えている。

茂呂教育長 他に質問はあるか。

無いようなので、技術分野について質疑を終わる。

続いて、家庭分野について報告をお願いします。

瀬山専門委員 家庭分野について報告する。

結論から申し上げて、調査員会の報告、学校の報告も、ともに東京書籍が、最も高い評価であることを報告する。よって、専門委員としては、東京書籍が最も本市の実態に即した、適切な教科書であると考えている。

それでは、各社の教科書について、個別に報告する。

はじめに、東京書籍である。

調査員会の報告では、新学習指導要領のねらいにそった具体的な手立てが明確であり、学習の流れや学び方が丁寧に示され、実習例や資料も豊富であること。また、ガイダンスページがとても充実しており、授業での効果的な活用が期待できること。小・中・高等学校の系統性や生徒の関心・意欲、食育の重要性などを鑑み、意図的な内容配列の工夫がみられること。各内容の終末、「学習のまとめ」において、ふりかえりとまとめをしっかりと分けて、生活に生かすことにつなげる工夫があること等の意見があった。

学校からの報告には、実物大の写真や、多様で豊富なデジタルコンテンツが参照できるなど、学習効果を高める資料も充実している点が数多くあげられている。これらの点が、実践的な活動を通して生活に生きる知識や技能の習得ができる構成になっていると考える。

次に、現在使用している開隆堂についてである。

調査員会の報告では、特筆すべき点として、題材のまとまりの中で、主体的・対話的に学ぶ小題材が意図的に、随所に設定されており、学びが深まるとともに、学習過程の中で資質・能力の育成が図られる工夫が優れていること。内容や題材の導入において、生徒の興味・関心を引き出したり、生活や社会の中から問題意識をもたせたり、考えさせたりする活動が数多く設定されていること。実物大の写真や実習例のページにQRコードを掲載するなど、動画コンテンツの数が豊富であること等があげられている。

学校からの報告にも、実物大の写真の見やすさや問題解決的な学習面が充実している、という調査員会の報告と同様の意見があった。

最後に教育図書についてである。調査員会の報告では、各内容の冒頭の「自立度チェック」や、小題材の導入課題における「見つめる」により、生活への問題意識をもたせ、興味・関心を引き出す工夫がみられること。中学生にとって親しみやすいアニメなどのキャラクターやイラストを数多く掲載するなど、学校からの報告書と同様の、生徒の興味をひきつける工夫がみられる、との意見があった。

以上が各社についての報告である。

家庭分野は、変化に富んだこれからの社会を生きるために必要な、生活に直結した、重要な学習であると捉えている。

家庭分野の学習では、生活の中で教科の見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫す

る資質・能力の育成が求められている。

このような新学習指導要領改訂の趣旨を含め、本市の実態を鑑み、様々な視点から総合的に判断した結果、何を学ぶか、何を身に付けるか、どのように学ぶか、どのように学んだことを生活に生かしていくかについて、生徒にとっても、また教師にとっても、分かりやすい、扱いやすい適切な教科書は、東京書籍であると考えている。

茂呂教育長 ただいまの報告について質疑を行う。何か質問はあるか。

菅原委員 今回の報告を伺った上で確認のため改めてもう一度伺うが、この度の採択において、家庭分野では特にどのような視点を重視したのか。

瀬山専門委員 重視した視点の1つ目は、生活の自立に必要な知識と技能を身に付け、自らの生活に生かすことができる教科書であるということ。

2つ目は、生活の中から問題を見だし、課題設定し解決する問題解決的な学習の充実と、地域や社会との連携、協働など、よりよい生活の実現にむけて意欲的に取り組むことができる教科書であるということ。

3つ目は、本市の実態に即した、生徒にとってよくわかる教科書、教師にとって指導をしやすい教科書であるということ。

調査員会では、この度の新学習指導要領の改訂の趣旨や家庭分野の目標を十分に踏まえ、検討してきた。

宿谷委員 川口市の生徒の家庭科における課題は、どんなことが挙げられるか。

藤田指導主事 課題は、何ととっても生活経験が少ないこと、家庭生活における考え方も実に多様なことである。結果、知識や技能において個人差が大きい。

原因として、社会の大きな変化に伴う少子高齢化、生活環境の変化、核家族化など、家庭の機能が十分に果たされていない状況、また、本市は外国籍の生徒も多く、家庭生活における考え方も実に多様である。これからの社会を生きるために、「生活に生きてはたらく力」として、知識・技能の確実な定着が強く望まれる。

齋藤委員 家庭科も技術と同じで、1校あたり、1人しかいない教科だと思う。川口の先生方の指導力についてはどうか。先生方の実態について詳しく教えてください。

藤田指導主事 今年度を例に申し上げると、陽春分校を含む27校のうち、臨任や非常勤を除いた本採用の教員は17名である。

この17名の中で、初任者を含めた5年経験以下の教員が7名、6年から10年経験者が4名であり、合わせると11名で、11年以上の経験がある教員は6名しかいない。この6名のうち、来年3月で2名の教員が定年を迎える。これらのことから、本市では若い教員、経験の浅い教員が多いこと。臨任、再任用、非常勤講師の教員も多く、毎年入れ替わりがとても多いことがわかる。

茂呂教育長 調査員報告書と学校からの報告書を見ると、3社のうち、東京書籍と開隆

堂が、特に学校の方は、ほぼどちらも高く評価されているように感じられる。

この2社のよさについて、もう一度整理して、具体的に説明していただきたい。

瀬山専門委員 それでは、実際に2社の特徴的な部分を見ていただきたい。

東京書籍は72、73ページを、開隆堂は116、117ページをご覧ください。

同じ「しょうがやき」の実習場面のページをご覧ください。作り方が、開隆堂はつける、焼くだが、東書は「つけ汁につけこむ」「広げて」「たれをからめる」と具体的な表現を使っている。また、「クッキングメモ」や「ポイント」で、知識を定着させる。「これだけはできるようになろう」において、ねらいとともに、実習後、しっかりと身に付いたかを各自で確認できる。

引き続き、東京書籍は、106、107ページを、開隆堂は160、161ページをご覧ください。これは、衣生活に係る題材のスタートのページである。

東京書籍は、左のページに小学校での学習、ここで学ぶ内容、教科の見方・考え方を示し、右のページには、イメージが持てるように、学習内容をおおまかにまとめている。

開隆堂は、一見、伝統的な柄がたくさんある。その中に吹き出しで、生徒が学習内容に興味・関心をもつような問いかけが書かれている。

今、2社の特徴的な部分を見ていただいたが、東京書籍では「説明が分かりやすい」「扱いやすい」という点、開隆堂が生徒に考えさせる活動の工夫や、思考力・判断力・表現力を育成し、学びを深めることができる点なども、このようなところに表れていると思うが、開隆堂は授業のファシリテーターである教師の指導力が、大きく影響すると思われる。

中田委員 昨年度、小学校家庭科の教科書は東京書籍が採択されているが、そのことが、今年度の中学校の採択について、どのくらい影響しているか。何か関係などはあるか。

瀬山専門委員 専門委員会では、決して「小学校の出版社が東京書籍だから、それに合わせて東京書籍が最適である」という報告に至ったわけではない。

子どもたちは、小学校5年生で初めてこの教科に出会い、小学校2年間の学びの上に、中学校3年間の学びが積み重なっていく。出版社が同じということは、「編成にあたっての理念や意図や貫く柱となる考え方、構成等が近い」といえるかもしれない。また、出版社が同じだと、実践例や題材、小・中における学習内容の系統性もそれぞれの教科書にしっかりと反映されていると思われる。

茂呂教育長 他に質問はあるか。

無いようなので、家庭分野の質疑を終わる。

- これより採択に入るがよいか。
- 委員 (異議なし)
- 茂呂教育長 それでは、各委員から意見があれば、技術分野、家庭分野、一括してお願いしたい。
- 菅原委員 生活の自立の観点や、よりよい生活の実現、本市の実態や、教員の状況も鑑みて、共に東京書籍がよい。特に料理のところは、将来子どもが一人暮らしをするときにも使える。
- 宿谷委員 写真、図、資料が分かりやすくまとめられている。技術と家庭合わせて一つの方がよいという利点もあると思うので、両方とも東京書籍を推す。
- 齋藤委員 共に東京書籍がよい。技術に関しては、社会人になってからの必要性もある。ポイントを絞って発信している。家庭に関しては、しょうがやきの焼き方がここまで丁寧に示されるなど、小さなことでも分かりやすくしている。これ1冊持っていけば一人暮らしができる。
- 中田委員 共に東京書籍がよい。技術では、情報セキュリティ、情報モラルなど各社分量が多くわかりやすい。東京書籍は発展させて後にどうするかまである。家庭は地域で生活していくこともある。
- 茂呂教育長 協議の内容や、各委員のご意見から技術・家庭は技術分野、家庭分野とも東京書籍を推す声が多いので、東京書籍を採択することに決定してよいか。
- 委員 (異議なし)
- 茂呂教育長 以上で、技術・家庭について協議を終わる。ここで、暫時休憩とする。5分程度。
- (技術・家庭専門委員、事務局 退室)
- (英語専門委員、事務局 入室)
- 茂呂教育長 議事を再開する。
- 専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。
- そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。
- これから、英語の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。
- それでは、お願いします。
- 荻上専門委員 英語は、新学習指導要領の改訂ポイントに即し、各社の優れている点について調査研究した。その上で、本市生徒の英語力の課題と、本市英語教員の実態を鑑み、本市生徒にとって一番適している教科書を検討した。
- では、各社の教科書について、報告する。
- まず、東京書籍。

イラストと写真を用いた語彙の紹介や文法説明が、視覚的にイメージしやすくわかりやくまとめられている。また、様々な種類の言語活動が提示され、題材も多岐にわたっている。学校の報告では、各單元には題材の関連情報や基礎基本を定着させるための演習問題が生まれ、特に文法解説が豊富に用意されており、基礎から学ぶことに適した構成であるとの意見があった。

次に開隆堂。

段階を踏んで4技能をバランスよく習得できるよう工夫され、各単元の学びの手順が明確でわかりやすい構成となっている。他社にない特徴は大きく2点。1点目は、単元の1ページ目に、単元で学習する文法事項が2コマ漫画で導入されていることである。2点目は、英語を使って即興で話す力を養う言語活動が、単元後半のR e t e l l yやI n t e r a c tのページに設定されている点である。学校の報告でも、これらR e t e l l yやI n t e r a c tのページについての意見が多くあった。単元の題材を読んで終わることなく、学んだことを自分の言葉で表現するための発展的かつ効果的な言語活動が展開できる点が評価されている。

次に三省堂。

R e a d i n gに特に工夫が見られ、各単元の長文読解では、新出単語等に日本語の意味があらかじめ記載されていることが他社にはない特徴である。また、生徒の自己表現を助ける単語や表現が各ページや巻末で扱われており、生徒が「自分が伝えたいことを英語で伝える」場面において、大いに役立つ。学校の意見からは、単元の題材に道徳的、文化的要素が含まれた内容が設定されている点に特色が見られ、さらに語彙の豊富さと、その意味・用法に関する付録資料の充実について評価する意見が多くあった。保護者からは、英語が苦手な生徒にとっては難しい印象があるとの意見があった。

次に教育出版。

文法事項の知識を最小限に抑え、生徒の気づきを促すよう工夫されている。また、学習した本文の一部を利用して自己表現活動につなげることができるT h i n k & T r y !のページに特徴が見られる構成となっている。学校の意見では、各単元の最終ページにR e v i e wが穴埋め形式で設定されているため、単元の文法の復習がしやすいとの意見があった。保護者からは、巻末にある赤透明シートが単語の暗記用ツールとしての活用に期待できるとの意見があった。

次に光村図書。

各単元は、3年間を通した一貫性のあるストーリーから成り、中学校生活を舞台とした実際のコミュニケーションの場面で展開される題材を、4技能の言語活動を通して学習する構成となっている。各P a r tの言語活動には、本文のストーリーと同じ場面が設定されているため、生徒は繰り返し聞いたストーリーの中の表現を活用して自分の考えを英語で表現することが可能

となり、無理なく新出表現の習得ができる。さらに、これらを定着させるためのリテリング活動が設定されている点も特徴の一つである。また、単元のゴールは「英語を使って何ができるようになるか」を捉えやすい4技能5領域別で提示されているため、生徒にとって学びやすく、教師が教えやすい構成である。学校の意見からは、1年生の教科書にフォニックスの学習がとても多く取り入れられており、追加の教材を購入することなく教科書を十分に生かした指導ができる点が評価されている。また、単元のストーリーが充実しているため、まとまりのある英文の概要把握や、新学習指導要領で求められる「即興性」を意識した生徒の「やりとりする力」を高める教材としても非常に適しているとの意見があった。

最後に啓林館。

知識および技能の習得に重点が置かれ、英語が苦手な生徒にも無理なく学習できる構成となっている。また、題材や資料も工夫され、生徒の興味関心を引き出しながら学習を積み重ねることができる。学校の意見では、生徒にとって身近な使用場面が題材に設定され、さらに効果的な挿絵により場面・状況をイメージしやすい工夫がされているという意見があった。

以上である。

茂呂教育長

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員

来年度から中学校における新学習指導要領が全面実施となるが、英語の場合、これまでとの変更点は、どんな点か。

千葉指導主事

新学習指導要領では、新たな領域として、「話すこと」が〔やりとり〕と〔発表〕に分けられ、これまでの「自分の考えを伝える力」に加え、「即興でやり取りする力」や「即興で発表する力」を生徒に身につけさせる必要がある。言語活動を通して「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域を関連付け、統合的にバランスよく育成することで、実生活や社会で活用できる力を養うことが求められる。

また、学習内容の増加も大きな変更点である。中学校で扱う指導語彙数が1200語から1800語へと1.5倍に増え、さらにこれまで高等学校で学習していた現在完了進行形や仮定法などの文法事項も中学校で学習することになった。

中田委員

英語の新学習指導要領のポイントは、どんな点になるのか。

千葉指導主事

新学習指導要領のポイントとなる点は3点ある。

1点目。「語彙や文法等の知識がどれだけ身に付いたか」に主眼が置かれるのではなく「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、「生きて働く『知識・技能』の習得」を重視している。「語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションにおいて活用できる」という「技能」の両面から身に付けることを目標としている。

2点目。英語を使ってコミュニケーションを行う「目的や場面、状況」を意識させることである。どのような場面で、どのような目的で、どのような相手の状況に対して使う表現かを、実際のやり取りを通じて体験し、理解をさせることを重視している。これは、昨年度より小学校5・6年生において教科・外国語科として開始している小学校学習指導要領でも、特に強調されている。

3点目。「授業は英語で行うことを基本とする」と示された。これは、生徒が授業の中で「英語に触れる機会」の確保と、授業全体を「英語を使った実際のコミュニケーションの場面」とすることをねらいとしている。さらに、既習の表現を用いながら、教科書の内容を説明したり生徒とのやり取りを行ったりすることで、教師の使用する英語が生徒にとって効果的なインプットとなることが求められている。

宿谷委員 違う切り口で伺うが、現在の川口の生徒の英語力には、どんな課題があるか。

千葉指導主事 本市生徒の英語力の課題は次の通りである。大きく2点ある。

1点目。昨年度の全国学力・学習状況調査では、聞くこと、読むこと、書くことにおける英語力3技能の能力が測定された。本市生徒の英語力は、3技能のいずれも県平均を下回る結果であった。特に「聞くこと」と「読むこと」において課題が見られた。

2点目。同様の調査の生徒質問紙では、「授業の中で、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合は、県平均を下回った。このことから、この度の調査では測られなかった「話すこと」の能力、特に新学習指導要領で新設された「即興で話す力」にも「聞くこと」「読むこと」と同様の課題があると想定される。

菅原委員 現在、川口の英語の授業の実態や課題には、どんな点が挙げられるか。

千葉指導主事 実態と課題は次の通りである。4点ある。

1点目。授業全体の指導が、「文法事項の理解（いわゆる知識・技能の習得）にとどまっている」傾向が見られる。「理解していること・できることをどう使うか」という思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導改善が急務である。

2点目。現在、本市の教員は、本採用から6年未満の経験者が全体の約4割を占めており、生徒の習熟に差が生じ、教科書を十分に生かした授業を展開できていない実態がある。教科書の内容を扱う順序、導入・活動の展開等には、指導者の創意工夫が不可欠である。

3点目。小学校との接続が十分ではない。小中の指導を連結させ、系統的な指導法を実践する必要がある。

4点目。昨年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙において、「生徒

に対する英語の指導として、英語を聞いて、概要や要点を捉える活動を行った」英語教員の割合は、全国・県平均を下回っている。

齋藤委員 今の本市生徒の課題と、教員の実態を克服するために重要なポイントは何か。

荻上専門委員 教科書として重視すべき点は、以下の5点であると考えます。

1点目。「読解力」を育てるための「聞く力」を養える効果的な学習構成であること。

2点目。単元の目標が「〇〇を聞き取ることができる」「〇〇を読み取ることができる」のように、学習指導要領に示されている5領域ごとに示され、生徒が身に付ける力を見通すことができ、教える側の指導手順がぶれないこと。

3点目。初任者からベテラン教師まで一定程度の水準で授業が展開できる、無理のない構成であること。

4点目。小学校4年間で培った「英語を聞いたり、話したりする言語活動」を十分に生かした学習の接続ができ、文法や語彙・表現において系統的な指導ができる構成であること。

5点目。英語の教科書において重要な「題材」は、生徒がコミュニケーションを行う「目的」「場面」「状況」を理解するのに最適なストーリーが設定されていること。さらに、単元のストーリーが教科書全体を通して大きくつながりがあることは、より効果的である。

以上である。

齋藤委員 この課題を解決する点で優れている教科書は、端的に言ってどの教科書と言えるか。

荻上専門委員 優れている教科書は開隆堂と光村図書の2社であると考えます。

両社に共通している特徴は、「リテリング活動」を効果的に行う構成になっていることである。リテリングとは、「まとまった英文を理解した後に、その内容を知らない人に伝える活動」で、普段、子どもたちが帰宅後に、その日学校であったことを家族に伝えるなど日常生活の中でよく行っている行動と同じである。「相手にわかりやすく伝えよう」とすることで、頭の中で英文内容が整理され、自分自身の内容理解をより深める効果もある。

茂呂教育長 では、開隆堂と光村図書の2社のうち、このリテリング活動のほかに優れている点があるのは、どちらの教科書か。

荻上専門委員 リテリング活動の他に優れている点があるのは、光村図書であると考えます。その特徴は以下の3点である。

1点目。題材全体にストーリー性があり、コミュニケーションを行うための目的、必然性のある場面、状況が設定されている。

2点目。単元の扉には単元のゴールが5領域「聞く・読む・話す（やりとり・発表）・書く」別で示され、「英語を使って何ができるようになるか」を

捉えやすいため、生徒が学びやすく、教師が教えやすい構成である。

3点目。教科書の題材を繰り返し学習する「5ラウンドシステム」の導入による効果的な指導が可能である。

千葉指導主事 「5ラウンドシステム」について、事務局より簡単に補足説明する。

このシステムは、5つのステップにより教科書の題材を繰り返し学習する指導方法である。

ラウンド1では、単元のストーリーを10回程度聞き、リスニングによる内容理解を行う。ここでは、本市生徒の課題である「聞く力」を十分に訓練する。

続くラウンド2では、音声である程度理解したストーリーを文字（単語、文）と一致させるリスニング活動を行う。この「音と文字の一致」後、ラウンド3で音読活動を、ラウンド4では、音読練習がアウトプットへとつながる橋渡しとなるように「穴あき音読」を行う。ここまで計40回以上聞いたり、発話したりを繰り返し、十分なインプット活動を行い、最後にラウンド5でアウトプットする活動につなげていく。ここで行う活動が、先ほどの説明にあった「リテリング活動」で、単元のストーリーを自分の言葉で伝える活動を行う。

また、この「ラウンドシステム」は、今年度より本市小学校5・6年生の授業において、光村図書の教科書により実施している学校があり、本市中学校では、来年度より導入する予定である。

荻上専門委員 専門委員会としては、以上のような点を鑑みると、光村図書が教科書を十分に生かした指導が展開できる本市の実態に最も即した教科書といえると考ええる。

茂呂教育長 確認だが、英語科の課題については、5ラウンドシステムの導入によって、効果、成果が現れると考えるか。

荻上専門委員 現れると考える。

茂呂教育長 他に質問はあるか。

無いようなので協議を終わる。

これより採択に入るがよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 それでは、英語の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

齋藤委員 光村がよいと思う。「5ラウンドシステム」の話を伺い、苦手な生徒を減らし、一定水準の授業を3年間保ち、高校につなげるツールとしてよいのではと思う。3年間のストーリー性をもった題材という説明から、学習のモチベーションにつながると思う。

菅原委員 川口の授業の課題から、その中でいまだに文法理解に留まっている点、小学校との接続という点を考えると光村がよい。東書や開隆堂もよいが、文法が強いように感じる。「5ラウンドシステム」の導入に当たって光村がよい

と思う。

宿谷委員 光村がよい。教科書を十分に生かし、本市の実態に合っていると思う。

中田委員 光村がよいと思う。川口の実態を考えると、調査員会も学校報告も評価している。「5ラウンドシステム」の導入で力の向上が期待できる。

茂呂教育長 協議の内容や各委員のご意見から、光村を推す声が多いので、英語は光村図書を採用することに決定してよいか。

委員 (異議なし)

茂呂教育長 以上で、英語について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。続いて道徳の専門委員と事務局の入室を求める。

(英語専門委員、事務局 退室)

(道徳専門委員、事務局 入室)

茂呂教育長 専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、道徳の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、願います。

中根専門委員 まず、調査委員会の報告書をもとに、全7社、それぞれの教科書のよさや特徴について述べる。

東京書籍は、川口市の課題となっている「いじめ」「生命尊重」について、大切に扱っていかうという意図が明確であり、教材も充実している。また、「考え議論する道徳」の実現のために、学びの仕組について丁寧に示されており、効果的な指導がしやすい教科書である。

教育出版は、各教材に「導入」と「学びの道しるべ」で問いが示されており、学習のポイントを明確にして授業が展開できるよう工夫されている。巻末には、「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」が掲載されていることも教育出版の特徴である。

光村図書は、「いじめ」や「情報モラル」をはじめ、AI、SDGsなど多種多様な現代的な課題を取り扱った教材が充実している。いずれの学年も3つのシーズンに分かれており、さらにテーマ別のユニットで構成されているのが特徴である。

日本文教出版は、教材と「道徳ノート」の2分冊構成になっているのが特徴である。「学習の進め方」では、問題解決的な学習や、道徳的行為に関する体験的な学習を進めるための手立てが具体的に示されており、授業の展開の仕方が分かり易くなっている。

学研教育みらいは、全学年を通して「生命尊重」をテーマとした教材が充実している。内容としても3年間の系統がうかがえる配置となっている。「深めよう」や「クローズアップ」のコーナーを活用することで多面的・多角的視点で考え、議論できるよう工夫されている。

廣済堂あかつきは、日本文教出版と同様、教材と「道徳ノート」の2分冊構成になっている。教材は、インクルーシブ教育や、環境問題、人権問題などこれからの共生社会を目指していこうとする教材が充実しているところが特徴である。

日本教科書は、教材が、内容項目の順番で配列されているところが、本社のみの特徴である。各学校の特色や方針によって、意図的に年間指導計画を作成し、教材を生かしていくよう促していると捉えられる。

次に、調査研究を進めるにあたり、報告書の観点とともに重視した視点を3点申し上げる。

1つ目は、本市の課題でもある「いじめ」「生命尊重」「自尊感情」に対応できる教科書であるということ。

2つ目は、「考え、議論する道徳」の授業を効果的に行うことができる教科書であるということ。

3つ目は、読みやすさや見やすさ等、本市の生徒にとって、手に取りやすい教科書であるということ。

以上の重視した3つの視点を踏まえて、より優れている教科書と考えた東京書籍、光村図書、学研教育みらいの3社に絞って比較検討してきた。その結果、調査委員会では総合的に判断して、東京書籍の教科書を使用することが望ましいと意見がまとまった。

続いて、学校からの報告書から、各社のよさや特徴が示されている所見を中心に述べる。

東京書籍は、巻末には、切り取り式的心情円盤やホワイトボードが付属しており、気持ちの変容や議論するツールがそのまま授業で使えるのは実用的である。

教育出版は、字が大きく読みやすい。また、教材の内容も中学生が直面しやすい場面や出来事を多く扱っている。

光村図書は、他教科へのつながりを意識した授業展開が多く示されており、道徳だけでなく広い視点で深められる工夫がなされている。

日本文教出版は、効果的に挿絵や写真などを多く掲載していることで、生徒が教材の内容をイメージしやすいように工夫がなされている。

学研教育みらいは、「深めよう」や「クローズアップ」のコーナーを活用することで多面的・多角的視点で考え、議論できるよう工夫されている。

廣済堂あかつきは、付属の道徳ノートに、生徒の生活に身近な補助資料が多く掲載されており、道徳的実践力を養える工夫がなされている。

日本教科書は、教材の配列が内容項目の順になっており、各学校の実態に応じた柔軟な指導計画が立てられるよう工夫されている。といった所見があった。

全体としては、東京書籍の教科書に関する所見が、最も多くあった。26校中、15校が東京書籍を生徒にとって一番学びやすい教科書であると評価している。他の6社につきましては大きな差異はなかった。

保護者の意見は、特になかった。

以上、調査委員会及び学校からの報告から、令和3年度より東京書籍の教科書を使用することを推薦する。

茂呂教育長
菅原委員

ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

「特別の教科 道徳」では、その目標を踏まえ、「考え、議論する道徳」の授業を行うことを通して、子どもたち一人一人に着実に、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていくことだと自分も認識しているが、先ほどの報告では、調査を進めるにあたって重視した視点の中に、『考え、議論する道徳』の授業を効果的に行うことができる教科書である」ということが挙げられていたが、その視点から分析したのか。そして、どの教科書がより優れていると考えるのか。

中根専門委員

道徳科の新たな指導法に、報告書の⑥問の観点の「問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習」という項目が挙げられる。これらの学習の進め方が、生徒に分かりやすく示されているか調査した。

東京書籍の巻頭オリエンテーション「道徳科の学びを深めるために」は、授業の流れを体験し、学びの意欲を高める工夫が見られる。

光村図書は「道徳の授業を始めよう」のページを設定し、丁寧に学年の段階に応じた目的意識を持ちながら授業を進められるよう工夫されている。

学研では、生徒が主体的に問題意識をもち、柔軟に考えることができるように「主題名を記載しない」などの工夫が見られる。

甲乙つけがたい状況ではあったが、考え、議論する道徳を実現するための手引きがより具体的であるという一点に絞るのであれば、光村図書であると考ええる。

宿谷委員

7社のうち別冊ノートがついている会社があるが、その活用の仕方や特徴など、よさがあったら、もう少し詳しく説明していただきたい。

中根専門委員

別冊ノート等がある会社は、日文、あかつきの2社である。別冊ノート等は、生徒に自己を見つめさせる手立てとなるとともに、自分自身の成長を実感させる手立てになる。教師にとっては、授業づくりの参考となるとともに評価を行う際に生徒一人一人を見取るための記録として活用することができる。また、生徒も教師も見通しをもって授業に臨める。

中田委員

道徳の教科化の発端として「いじめ」問題に対する指導の充実を図ることが重要であると考ええる。川口においては特に、いじめに対する指導を充実さ

せることが重要であると思うが、そのような点で教材が充実しているのは、どの会社の教科書か。

中根専門委員 結論から言って、東京書籍が最も充実していると思う。

各学年「いじめのない世界へ」という題で3時間扱いのユニット構成になっている。複数教材を通して様々な角度からいじめ問題と向き合えるよう工夫してある。教材の内容も、SNSでのいじめなど新しい問題を掲載していたり、実際の事例を漫画で表したり、生徒に自分事として考えさせる工夫がなされている。

齋藤委員 教育に関する全国的なニュースから、本市でも、命の尊さを指導する内容が充実していることが大切であると思う。そのような点で、どの会社の教科書がより優れているか。

中根専門委員 この点に関しては、学研教育みらいがより優れていると思う。

学研の教科書は、「命の教育」を重点テーマとした構成となっている。内容項目「生命尊重」の教材が各学年3つずつ配置されている。また、他の内容項目とともに、「いのちの大切さ」を考える教材も意図的に複数掲載されており、命について多面的、多角的に考える授業が展開できるよう工夫されている。

齋藤委員 本市の課題として挙げられた自尊感情について、効果が期待できる題材が充実しているのは、どの会社の教科書か。

中根専門委員 東京書籍が、比較的充実していると思う。

東京書籍は、等身大の主人公を題材とした教材が多く、生徒が共感しやすいと思われる。特に内容項目「個性の伸長」の教材は、同年代を主人公とした教材であり、自己の生き方を見つめ考えを深めることが期待できる。

中田委員 昨今では、SNS上での誹謗中傷による被害が大きな社会問題となっている。そのような中で、情報モラルに関する道德教育の役割は大変重要であると思うが、「情報モラル教育」という視点で見たとき、内容が充実している教科書はどの会社の教科書か。

中根専門委員 情報モラルについては、東書、日文の2社が充実している。

東書は、「情報モラルと友情」を3年間共通テーマとして全学年でSNSを題材とした教材が掲載されている。

日文は、情報社会の倫理や情報セキュリティに関わるコラムが掲載されて、発達の段階に応じて学習できる工夫がなされている。

茂呂教育長 学校からの報告書を見たところ、多くの学校が東京書籍を評価しているが、その理由は、どこにあると思うか。

中根専門委員 東京書籍は、昨年度1年間使用してみて、生徒にとって学びやすく、教員にとっては指導しやすかったということの表れだと思われる。

巻末についている、心情円やホワイトボードは、より使いやすいものへと改善され、活発な話し合いが展開できるツールとしての活用が期待される。

- 茂呂教育長 他に質問はあるか。
無いようなので質疑を終わる。
それでは、道徳の教科書を決定していきたいと思う。ご意見があればお願いしたい。
- 菅原委員 東書がよいと思う。専門委員の説明のとおり、使い始めて1年しか経っていない中での現場のこの評価であること、SNSやいじめなどの課題に対して、何らかの評価が高く入っていることから東書がよい。
- 宿谷委員 学研がよいと思う。命の尊さなどの質問に対し、専門委員から学研という答えだった。最も重視しなくてはいけないものと思うことから、学研がよい。
- 齋藤委員 東書か学研で迷ったが、生徒目線での入りやすさで見ると東書がよいと思う。
- 中田委員 情報モラルについて大切だと思う。きちんと決まっていて3年間継続し、さらに発展して、いい意味での活用がされているので東書がよい。
- 茂呂教育長 意見が分かれたが、情報モラルやいじめの課題、学校報告や専門委員の意見からも東書を推す声が多いので、道徳は東京書籍を採択することに決定してよいか。
- 委 員 (異議なし)
- 茂呂教育長 以上で、道徳について協議を終わる。専門委員と事務局は退出を。
(道徳専門委員、事務局 退室)
- 茂呂教育長 それでは、議案第123号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」の協議が終わったので、採択した教科書の確認をする。
すべての中学校の教科書については、
国語・・・光村図書
書写・・・光村図書
社会（地理）・・・東京書籍
社会（歴史）・・・東京書籍
社会（公民）・・・東京書籍
地図・・・帝国書院
数学・・・啓林館
理科・・・大日本図書
音楽（一般）・・・教育芸術社
音楽（器楽）・・・教育芸術社
美術・・・日本文教出版
保健体育・・・学研教育みらい
技術・家庭（技術分野）・・・東京書籍
技術・家庭（家庭分野）・・・東京書籍
英語・・・光村図書

特別の教科 道徳・・・東京書籍
ということになった。

以上で、議案第123号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」を可決する。

7 その他
なし

8 閉会
茂呂教育長

以上をもって本日の教育委員会定例会を閉会する。(午後4時50分)